

今迄の全集 是迄の巻の刊行と
完了の時 昨午藤村博士の
諸氏が記念の事此後と母持
寄贈の由と 有る事
巻頭署名の末に 感謝

大正十五年十一月

福田 恒三

11-7-560 (2)

572-1

著三德田福 士博學法
集全學濟經
集一第

經濟學講義

經濟學講義 改定經濟學講義
續經濟學講義 國民經濟原論
經濟原論教科書

大正十四年三月 刊

和二年二月十五日
大正十四年三月
寄贈

法學博士 福田德三著

七册

經濟學全集

集一第

東京 株式會社 同文館藏版

III-7-562(2)

豫 502-1

著三德田福 士博學法
集全學濟經
集一第



經濟學講義

經濟學講義
續經濟學講義
經濟原論教科書
改定經濟學講義
國民經濟原論

大正十四年三月 刊

昭和二年二月十五日
大正十四年三月
寄贈

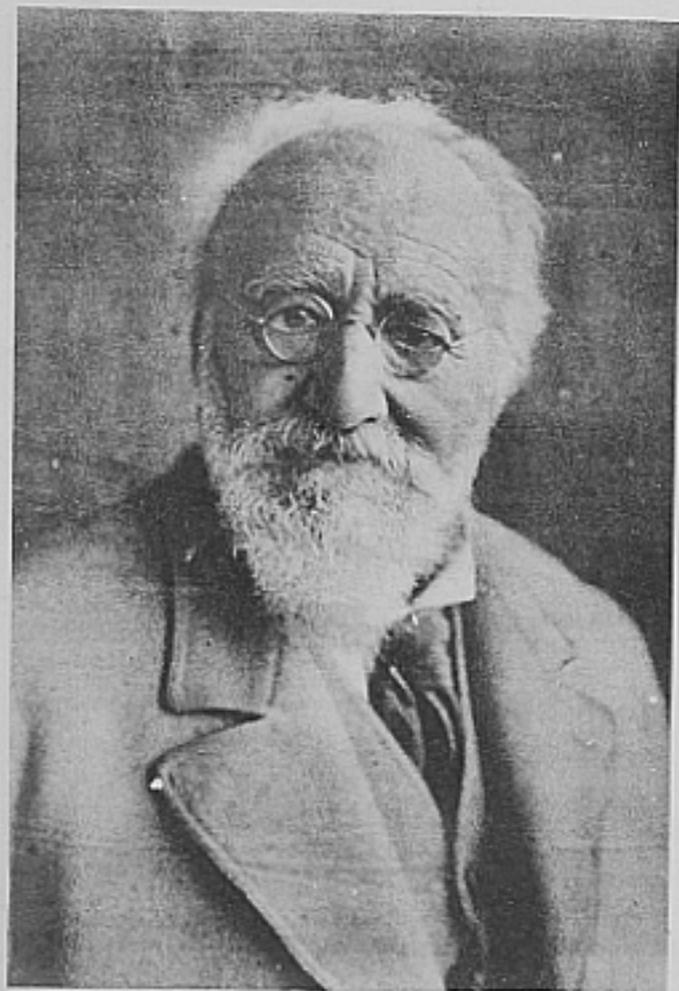
經濟學全集

法學博士 福田德三著

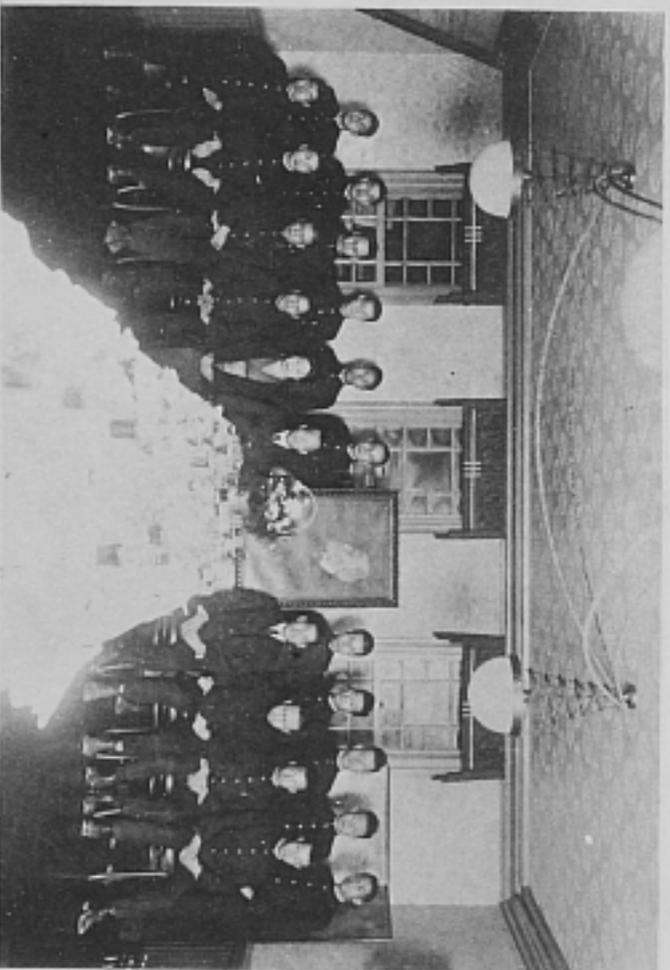
十册

集一第

東京 株式會社 同文館藏版



生先ノタンレブ・ヨル
影撮の近景



日八十月二十年四二九一

影撮會賀歲十八浦生先ノタソレゾ

經濟學全集 第一集序

今年今日は恩師ルヨブレントノ老先生満八十歳の高齡を重ねられる日、彼地に於ける同門の諸君は、此日を期して伯林・ミュンヘン等に於て盛大な祝賀會を催され、其記念の爲め、經濟政策の理論的並に實際的研究に關する論文を舊門生の手に於て起草して、祝賀論集を刊行することになつて居ります。私も其一部を分擔す可く命せられました。然し果して出版の時期に間に合ふよう脱稿し得られるか否か豫期出來ないのであります。ソコで私に於て考へ付いたのは、此の經濟學全集であります。恰も時期を前後して、老先生御自身も過去の諸論文を編纂して、論文集の刊行を御始めになりました。今日迄に既に二冊（第一冊は『歴史に於ける經濟人』と題し一九二三年刊行。第二冊は『國民經濟の具象的根本諸條

件」と題し一九二四年刊行。共にライプチヒのフュリックス・マイナー書店出版公けになつて居ります。私が過去二十五年の間に筆を執つて公けにしたものは、何れも主として歐米諸先覺の研究を紹述したもので、嚴格な意味に於て自分の研究と名け得可きものは、殆んどないと申さねばならぬのであります。就中最も多く學びましたのは、申すまでもなく、ブレンタノ先生からであります。而して其れは親しく先生の膝下に居つた四年間のみではありません。私は先生の許を辭して歸朝してから、今年今月で丁度二十三年半になります。其間絶へず私を刺戟し鞭撻したものは、時々先生から頂く書簡と新刊の御著書とであり、而して經濟學・經濟史・經濟學史・經濟政策・社會政策其の何れの部門に於ても、私が或は講義講演に、或は著書論文に於て典據としたものは、何れも先生過去の諸々の御著述であつたのであります。故に勞働經濟論刊行以來の過去二十五年間、私が學問上に於て何か少しでも成したことがあるとするならば、其れは

何れも先生の賜に外ならないのであります。従て先生八十の賀を記念する爲めに、私は私の過去の述作の全部を一括して其れを先生の座右に捧げ、御禮の意を表すると共に、御叱正を受けることを切望するものであります。先生に於ては御迷惑でありませうが、私としては此れが最も適當な事であると存じたのであります。ソコで、私は其意味に於て本年に入つてから過去の自分の述作全部を集めて見まして、之れに若干の訂正を施すことに着手したのであります。

私は先づ編纂の順次を定めて、第一集經濟學講義・第二集國民經濟講話第三集經濟史・經濟學史研究・第四集經濟學研究・第五集社會政策研究・第六集經濟政策及時事問題とすることとし、第一集と第二集とに就て逐一校訂の業を試み、續て第三集以下の原稿を多少整理して見ました。然し何時其等の刊行に着手す可きかについては、確とした考を持つて居らなかつたのであります。何となれば、私如きものが全力を盡して新たに起稿

したものと雖も、之を先生の賀會の記念物とするには、大に慎重の考慮を要することでありませう。同門の諸君は、何れも歐米の地に在つて、日進月歩の學界の環境中に豊富な材料を左右に有ち、絶へざる刺戟と暗示とを受けつゝ、有益な述作を新たに起草して先生に捧呈せらるゝ、其仲間に入つて、一切此等の便益を有たず、苟且偷安の環境中、醉生夢死同様な生活を營んで居る私、殊に近來はジャーナリズムの雰氣に囚はれて、心ならずも其日々々の談論に力を銷耗して居た私、逆も同門諸君に伍し得る様な學問的研究を仕上ぐる見込はないからであります。況んや過去の諸述作の如き、其大部分は私自身としては、之を研究と名くる大膽を有し得ないものであるのを、唯だ印刷を新たにしたらと云ふだけで、之を一括して先生の座右に捧ぐると云ふことは、如何にも烏澁の沙汰であるからであります。

事情右の如くなるにも拘らず、私が茲に意を決して、此の經濟學全集の

刊行を敢てするに至りましたのは、更らに三つの事情があるからであります。其一つは、私の友人並に受業諸君が兼てから、私の過去の述作の中絶版になつて居て手に入れ難いものがあるから、何かの機會に其の再刊をしろと度々すゝめて居られます。私は過去の著作の價值乏しいものであることを十分知つて居ります、然し全く反對の極端に變説した爲めに、是非とも絶版に附せなければならぬと思ふものは一もないのであります。唯態々印刷に附する價值もないと存じて絶版の儘にしてあるのであります。トコロが本年本月は、ブレンタノ先生八十の誕生節に丁ると共に、私自らは五十の齡を重ねることゝなるのでありますから、此れを機會として全集を出したら、すゝめられる方が若干ありました。其れと同時に、昨年震災で、大倉書店出版のものは全部、改造社及大鑑閣出版のものは一部紙型を焼かれ、右三店並に同文館出版のもの、既刷本は殆んど全部焼失に歸し、從て再組み又は再刷を要するものが多數あること

となりました。故に若し全集を新たに組版するとならば、今が最も適當の時期であるのです。此れが私に此全集刊行を決意せしめた第一の事情でありまして、以上四出版書店何れも此れに異存なきことを言明せられたのであります。

次に、私は近く明年三月を以て二十四年振で學士院と商科大學とから歐羅巴へ派遣せられる可き旨の内命を受けました。此は私に二つの機會を與へます。其一はブレンタノ先生に二十四年振りで御目に懸り得ると共に、先生御所藏の文庫の整理を親しく其所在地に於て爲し得ることと是れであります。先生は滿八十歳に達せられるを機とし、從來の研究に段落を興へ、向後は一意に英國經濟史の研究に没頭することと定められ、老體を厭はず、ツヒ數日前海を超へて英國に渡られ、大英博物館附近のブルームズベリーの一旅舎に宿を取られ、同博物館内の圖書館に出入して孜孜として材料の蒐集整理に従事して居られます。而して從來の研

究資料であつた其の御藏書は、全部之を賣却することとせられ、私へ手紙を以て日本に於て右を十分利用し得る人にして買入るゝものはなきや、若しあらば其賣却方を一切汝に託すと申聞られたのであります。私は其事を本年夏頃の東京朝日新聞の探し物欄へ投書して、買入希望の方を探して居る旨を公けにしました。爾來所々方々から色々御懇篤な通信に接しました。併し私の身としては出来るならば、私自ら右の御譲渡しを受けて向後自分の研究を其れに傾倒して、先生の御希望の十分の一にも副ひ度いは山々であります。先生も此消息を諒とせられ、其賣却直段を驚く可き低い價とせられました。恐らく市場値段の五分の一か、六分の一にしか當るまいと存じます。私は先生の御志に感激して種々工夫を凝しましたが、結局自分へ御譲りを願ふ旨御返事致して置いたのであります。而して來年渡歐の上で文庫の所在地にして先生の隱退地であるキーム湖畔のブリートンへ參つて自分で文庫の整理をする機會が、派遣

の命によつて端なくも得られることになつたのであります。然し此の外遊は文庫の整理の爲は勿論、學問研究上には願つてもない幸でありま
ずと共に、先生の文庫を頂く爲めに當てたものへ手を付けなければなら
ないと云ふ心配を伴ふのであります。此事を聞いて嘗てブレンタノ先
生と共著の形で公けにしました私の處女作『勞働經濟論』の版元たる同
文館では、故森山氏以來の縁故を忘れず私の爲めに若干金を立替へるこ
とを申出でられたのであります。私は此の申出を快受しました。而し
て之れに對する謝意を實現する方法としては、他の何書よりも私の計劃
中の經濟學全集の刊行を託するのが當を得て居ると存じました。此れ
が全集刊行を敢てするに至つた第二の事情であります。

更らに又た外遊に依て得られる第二の機會は、私としては過去二十五
年の總勘定を爲し得ること之れであります。私は此を一の轉機として、
從來の諸著作に一段落を與へ向後は多少變つた方針を取りたいと存す

るのであります。二十四年前ブレンタノ先生の膝下を辭し去るとき、私
の心地では、再び先生の溫顔を拜する機會あらば、其時こそは兎に角先生
の微笑を購ひ得る様な研究述作を世に出して之を持參したいと思つた
のであります。然るに今此全集にまとめたものを回顧しますと、何一つ
として其當時心に期したようなものはなく、理論の研究に於ても、經濟史
學史の研究に於ても、政策の研究に於ても、多くは先進學者の業績を紹述
し、間々若干の批評を試みた丈で、先生の學恩に報じ得可きものは毫も
存して居らないのであります。必竟過去二十五年間私が學問上に爲し
たことは、云はゞ我邦經濟學の黎明期に於ける一の黎明運動に外ならな
かつたのであります。私は嘗て黎明録と題する一書を公けにしました
が、實は私の此全集の一切をあげて一の黎明録たるに過ぎないのであり
ます。此意味に於て過去の總勘定録たる此全集が若し刊行を許さるゝ
ものならば、此度の外遊こそ最も適當な機會たる可きかと存じました。

此れが刊行を敢てするに至つた第三の事情であります。

右の次第でありますから、私の此全集は如何なる意味に於ても他の諸々の全集の様に其著者の誇りとす可きものではありません。寧ろ一部の懺悔録たり鶏肋集たるに過ぎないもので、若し其存在に意味があるとしたら其は過去に取つてゝなく將來に取つてゝなければなりません。即ち其は過去の私の研究の跡を示すものとしてゝなく、將來に於ける私の研究に發奮の資料たる可きものとしてのみ意味を有つものであります。従て此全集に對しては如何なる酷評を受くることありとも、私は其を當然のこととして甘受するもので、嘗て引用した句を以て申せば、辱められて而して憤し、憤して而して啓するを得んと申すのが私の此書に對する覺悟であります。私の學問上の仕事は此全集のみに止るならば、私は日本の學界の一員たる光榮に背くものと存じます。此書は唯私に轉回の一刺戟を與ふると云ふことのみに其價値が存するのであります。

讀者諸君此の點を十分御諒察の上此書を繙かれんことを切望します。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

此第一集には、經濟學講義、改定經濟學講義、續經濟學講義、國民經濟原論、經濟學（今原論と改む）教科書の五書を収録しました。而して其れを經濟學講義と總稱することにしました。其故は何れも經濟學講義を中心とした其前後の著作であるからであります。原論は歸朝勿々公けにしたもので、未熟極るものであります。私が經濟原論に就ての出立點を示めたものですから、茲に收めたのであります。此書は本文は全く先覺學者の書の紹介に過ぎないので、私の仕事は主として註釋にあります。故に舊版の趣きを改めて、註釋を一々本文に接近して掲げることになりました。改定經濟學講義は初めの部分を公けにした丈で、中絶となつたものでありますから、其全文を經濟學講義中に適宜に分割して挿入しま

した。其ために多少重複の點は免れぬと存じますが、前後の聯絡を明かにするには、斯くした方が當を得て居ると存じます。續經濟學講義は講義の續篇ですから、之を合して一部の書と看做して頂く爲め編數を追ふことに致しました。以上は何れも久しい以前の著作ですから、其後説を改めた所が尠からずありまして、私の現在の立場とは異つた論述も多くあります。依つて現在の私の立場を一目の下に明かにするつもりで、經濟原論教科書には可なり念入りに訂正を施して之を卷末に收めました。斯くして二十年前の私の學問上の旅行出立當時の經濟原論に關する考と、現時の考とを一書中に併載したことになるので、讀者に於て比較對照せらるゝに多少便利があることゝ存じます。前の四書については事實の誤りを正したり、若干新しい事實を追加したり、就中書物に就ては成る可く最新版を擧げ、其他年代等もアップ・トゥ・デートにするようには勉強しましたが、大體の論述は無論舊態の儘に存置してあります。

従つて元々古いものを補修したものと、して御覽を願はねばなりません。各書とも其れ／＼舊版の序言を掲げて置きましたから、著述當時の事情等は其れに就て御諒解下さることを希望致します。索引は新たに大野隆君に作成して頂いたものであります。多少とも御便利とならば幸甚に存じます。第二集以下何れも各集へ人名、件名兩索引を附し、更らに最終冊へは、總索引を作成して載せる筈になつて居ります。

序に申添へます。第二集も近々組版を終る見込でありますから、本集と前後して刊行し得られることゝ存じます。此二集までは私も一校丈だけは印刷の校正に當りました。其他の校正は大野隆君を煩はしたのであります。第三集以下は出立までには悉く原稿の整理を卒り得るつもりであります。印刷の校正は勿論一切の後事を擧げて大野隆君に託して行くつもりであります。従て行届かないことがあるかも知れませんが、其點は寛恕を祈ります。猶同文館では、私の歸朝以前に全部の出版を完

了する積りださうであります。

大正十三年十二月十八日

フレンタノ先生八十賀當日の夜半

商大セミナーの賀會より歸りて

於中野本郷三素書屋

福田徳三

謹識

第一集 總目

一 經濟學講義 (改定經濟學講義、續經濟學講義 合纂) 一一八—一四四

二 國民經濟原論 八五—一三二

三 經濟原論教科書 三五—一四四

刊行一覽

經濟學講義

大倉書店

〔正卷〕 第一版明治四十年九月廿一日 第二版同年十月十日 第三版同年十一月一日 第四版同四十一年二月廿五日 第五版同四十二年十二月十日〔中卷〕 第一版明治四十二年六月十三日 第二版同年六月廿七日 第三版同年八月廿六日〔下卷〕 第一版明治四十二年九月廿四日 第二版同年九月三十一日〔上中下合卷〕 第一版明治四十二年十月十二日 第二版同四十三年一月廿八日 第三版同年六月十五日 第四版同四十四年五月十二日

大倉書店

改定經濟學講義(第一卷)

第一版大正四年十一月十日 第二版(索引附) 大正四年十二月十四日

大倉書店

續經濟學講義

第一版大正二年五月十六日 第二版大正二年六月一日

國民經濟原論

第一版明治三十六年十二月二十日

哲學書院

第二版明治四十三年一月八日

大倉書店

經濟學教科書

大倉書店

第一版明治四十四年十二月五日

第二版明治四十五年一月廿日

第三版明治四十五年四月

第四版大正二年五月三十日

經濟學講義上卷 第一版序

元

此書名けて經濟學講義と云ふ既に繰返したる講義の謂にあらす將きに新たに試みんと欲する講義の意なり。今此を慶應義塾講義の裡に止めず汎く世上に公にして斧正を待たんとするに臨み予は先づ陳辯の辭を以て讀者に見ゆ可き義務あるを感ず。

予が經濟學の講義に従事する前後五學年前の三回は高等商業學校に於ては後の二回は慶應義塾に於てしたり。其第一回の講義は歸朝後起稿の餘日毫もなくして直ちに壇に登らざる可からざりしが故に予は留學中アレンタノ先生に受けたる講義の筆記を其儘自己の原稿とし纔かに私案を折むに止めたり。故他なし予は留學の間學ぶの愈なるを思ふのみにして敬ゆるの義務の有するを忘れ新らしき事知らざる事を追ひ求むるに忙しく退て得たる見聞を整理して講義の草稿を作ることを怠りしが爲めなり。第二回の講義は多少準備の餘裕ありて編次にも内容にも稍々自己の工夫を試みたれども大體に於て譯案翻譯に外ならざりき。是を以て予は講壇に登り學生に見ゆる毎に不安惶愧の念禁せんとして能はず徒らに厚祿を食み優待を辱かしむるを願ひて心中堪ゆ可か

ちざる苦痛を感じ。故に其第三回に於ては刻苦勉強して始より終まで自家鍛錬の作物を以てして此の苦痛を免れ重き責務を少しく輕うするを得んと志し三十五年の冬より翌三十六年の秋に涉りて經濟原論の起稿に従事せり。是れ同年九月以降高等商業學校に於て試みたる予が第三回の講義にして其一部分を國民經濟原論と名けて同時に梓に上げて世に問えるものなり。然るに其書は出版物として全然失敗の舉に了り續巻刊行の望全く絶え既刊部再版の機會亦なく書成りて後自ら所々に發見せる誤謬を匡しまた公并に私に與へられたる批評を參酌して根本的改修を加へんとの心願は終に充さる時なくして訖れり。恰かも時を同うして高等商業學校に於ける予が經濟學の講義も亦た無用の事となり此第三回を最終の講義として予は勿々行李を收めて都門の外に退き靜修存養復た他事を顧みる暇なかりき。

超えて年餘慶應義塾予に科外講義を囑する事ありて一週一回篤志者と三田山上の講堂に會するに至りしが未だ經濟原論の全部に涉りて講義することなくして止めり。翌年慶應義塾は新たに經濟原論の科を増設し予は入て教班の一人と爲り其講義を分擔するもさなるに及び再び全體に就きて多少の工夫を積む機會を得たり。然れども國民經

元

濟原論出版以後閱せる四年の星霜は予をして自己修養の熟むず準備の整はざるを彌々深く覺らしむるのみ。蓋し予が當時の企は大膽無謀を極めたるものにして縦業翻譯の時代纔かに去りて忽ち自家の學問を一系統として展ぶ可き經濟學概論なる書の著述を作せんと出版業の困難と學界の錯綜とに迂遠なるを顧慮せざる輕舉なりしこと到底否むに由なき所なればなり。故に予は國民經濟原論を新なる面目の下に再生せんには先づ全力を傾注して自家學問の整頓を圖らざる可からざるを思ふ切なりき。恰かも好し慶應義塾の講義は我邦に行はれたる一般の慣例を破る可き新案に成る者にして從來講義と云へば教師は机上の原稿によりて口述し學生は筆を執りて之を轉寫するに限られしが此講義は數百の學生を一堂に集むるの弊多きを思ひ一級を數部に分割し各組毎に教師を異にし一定の教科書を與へ之れに就て講授することゝしたる者なり。予は教育術の専門家にあらざれば此の新制と從來の舊制との優劣を品臨する能力を有せざるものなれども學生化して速記者となり耳に入る所直ちに手に移り中間の頭腦は講義を聞くの後の空虚なること聞かざる前に同じきの憂割合に少くして學生の理解力と讀書力と外國語の教科書を用ふるにより外國語の讀書力とを養ひ得ること筆耕と暗誦と

を維れ事とするに勝れるものあるを確認するものなり。而して教師たる予に取りて慶應義塾の此新案は更らに一の大なる利益を有せり。予は經濟學の講義に従事する既に數回を重ねたれども未だ一回も全部を講了するに至らず又自ら満足する稿案を作り上げたる事なく而して國民經濟原論の中既に公けにしたる分并に草稿として予が手許にある者は誤謬缺陥余りに多くして之を學生に講述するの勇氣を有せず速かに之を改造すること亦た容易ならず。然るに教科書を土臺として之を予が今日まで學び得たる所を以て増減し解剖し論評しつゝ講述するにより予は一も良心の呵責を蒙むることなくして樂に従ふを得たることは是なり。而してまた此れが爲めに予は自家修養の工夫を凝らすの餘力を剩し得并に散亂せる諸種の舊稿を蒐集整理して經濟學研究なる一書を上梓するの餘時を見出し得たることは予が殊に感謝せざる可からざる所なり。

茲に及んで予は再び國民經濟原論新刊の必ずしも絶望す可き事にあらざるを覺え筆動かんを欲して抑へ難きを感じ。而も進んでは今此れを出版す可き準備未だ備はらず退いては自家學問の系統を成し上ぐ可き修養未だ甚だ足らず。曩時の輕舉を復びずることは予の直情徑行を以てして猶ほ敢てするの勇氣を缺く。若かず先づ予が過ぐる

一學年の間に得たる経験を基とし新學年に於て爲す可き講義の概要を自ら記述し之を講覽に試むるに共に汎く世間に出して其教を得んには、乃ち經濟學研究校訂の業卒るの日より始めて推敲陶鑄漸くにして得たるものは即ち今茲に公けにする經濟學講義是なり。

慶應義塾の講義はマーシアル教授の大著經濟原論を用ふ。マーシアル氏は現在英國經濟學者中第一の耆宿にして其著は獨逸のシュモラー、ワグナー兩氏の經濟原論と相並んで現今斯學の三大巨作と稱せらるゝ所なり。然れども學者各々信ずる所あり予は悉く教授の論を奉ずること能はず。此書教授研鑽の金玉は之を洩らざるを勉むるに共に又予が自家所藏の瓦礫を以て之を相攻むること尠からず。思ふに罪を教授に得る甚大なる者あらん。唯だ論を平にし辭を明にして難澁混池を以て讀者を惱まさざらんを力め玉と石と一に其採るに任せて妨害を設けず殊に予が舊著に於て陷れる煩鎖銜組の過を再びせざらんを期せり。予果して其欲する所を成し得たりや否や謹んで江湖先覺の鑑明を仰ぐ。

若し夫れ本書あるによりて外は曩に國民經濟原論を以て普く學界に得たる罪過の幾

分を償ふを得内は之によりて予が性來の怠慢を鞭撻するの料と爲すを得んか庶幾くは予が忘れんことして忘るゝ能はざる四年前の處女作は更らに新たに見ゆるの時あるを得ん。

此書成る一に慶應義塾の賜なること叙する所の如し。今其出版に際し予は謹んで不見の師故福澤先生の高風を追憶し義塾創立第五十年を記念せざるを得ざるなり。

徒らに長き序文を以て讀者を煩はしたるを謝し併せて此書著作に際し予を激勵し補助したる友人に深謝の意を表す。

明治四十年八月二日

駿河靜浦に於て

經濟學講義合卷 第三版・序

本書は分冊の版を重ねる毎に多少の訂正を加へ合本第一二版共にまた誤植等を匡すに意を用ひたれども猶ほ意に満たざる所幾からざりしが此度第三版を刷刷に附するに

方り全篇を通じて増補訂正を施したれば先以て聊か心を安するを得るものなり。書中削除せる中の重なるものは坂西氏企業論の抜萃（第一編第二章）にして是は近く續經濟學講義に於て企業論を詳述す可ければ今は必要を認めざるに至れるものなり。而して此によりて剩し得たる紙数を以て所々に追論を試み置きたり。其重なるは經濟學研究法に關して河上教授に答ふる一文にして兼て約束し置きたるものなり。其他多少の増補を企てたる所少からず又新刊書の類は勉めて之を加へ改版あるものは其由を言ひ置けり。斯くて予が見聞の届き微力の及ぶ限りは最新の進歩に後れざる様期したれば爾今暫くは復た改版の必要なきかと思ふものなり。予は決して一時を安の偷まむと欲するものにはあらざるも去四十年始めたる本書の業茲に一段落を告げ是よりは續經濟學講義の進行に一意専心するを喜ばざるを得ざるなり。

顧みれば予が此書の稿を起したるときは前途甚だ遠達にして果して中絶するなきを得るや否や聊か懸念なきを得ざりき。其後身邊の事情は種々の變遷を経過する間に本書のみは江湖の優渥なる知遇を忝うし學友諸氏の懇篤なる鼓舞は言ふまでもなく未見の人士にして書を寄せて激勵せらるゝあり缺點を指摘して予が蒙を啓かるゝあり此等

内外の援助なくんば此書恐らくは中絶の厄を免れざりしならむ。

本年の初より高等商業學校に於て經濟原論の講義を擔當することとなりしは予が研學の上に著しき助さなれり。其は慶應義塾に於けるマシーナル講義の外別に全く異なる考案を起す必要は予をして再び全體に涉りて經濟學の叙述法に工夫を積む機會を得せしめたること是なり。而して予は此によりて得たる經驗を他日經濟學講義の上に必ず顯はし得可きを信するものなり。

明治四十三年五月

鎌倉三素書房に於て

改定經濟學講義 序

經濟學講義は明治四十年より四十二年に涉りて上中下三卷を續刊し四十二年十月全部を合綴して第一版として重刷し爾來大正二年に至るまでに前後五版を重ねたり。江

湖谷願の優渥なる此間著者をして意の如く屢次校訂添削することを得せしめたるは感
 附に辭なき所なり。然れども部分的の改修のみを以てしては著者研究の行程を遺憾な
 く盡くすこと能はず自ら書を繕讀して慚愧に堪へざるもの甚だ多し。仍て第五版を限
 り絶版として復た重刷せず退いて書の全部を通じて改稿を企て大正二年より今日まで
 絶えず其事に従ひしも著者性來の怠慢なる業遅々として進まず今漸く其第一卷印刷成
 り之を改定第一版として公刊し得るに過ぎず。著者は幾度か繰返して自己能力の微弱
 なるを嘆息せざるを得ざるものなり。向後更らに一層の勤勉を以て第二卷以下を續刊
 して先輩同人の厚意に孤負せざらんことを期す。

本改定版は凡て之を六卷に分ち續經濟學講義に於て論述可き部分の全部をも網羅し
 斯學原理の全體に關する予が研究を總括せしめ最終卷には參考書目并に總索引を附し
 て讀者の便を圖る可き所存なり。改稿の方針は舊版に於けるが如くマールシアル教授金
 玉の論と著者瓦礫の管見とを混淆すること全廢し本文に於ては勉めて教授の論說に
 して著者が認めて正しとするものを洩れなく忠實に紹介することとし補論に於て他學
 者の研究と著書の私論とを十分に記述してマ教授の提出する問題をあらゆる方面より

糾查論盡することしたり。故に本書の全部を見る餘暇なき讀者は本文のみを讀むも
 首尾一貫して斯學の大意に通ずるを得可く時間に餘裕ありて更らに研究せんとする讀
 者は本文補論併せ見られんことを希望す。乃ち改定版に於ては舊版と異り一卷毎に本
 文を一括して初めに掲げ補論は之を一括して其後に附載し參考書目は凡て書末に集成
 して掲出することしたり。

著者の期する所徒らに大にして成し得る所は其半にも及ばず。著者は唯だ微力の及
 ぶ限りを致して日本の一學者たるの分を盡し得んと欲するのみ。乃ち耳食孫引の類は
 勉めて之を避け精確忠實を以て本書を一貫する精神としたり。印刷の校正も一々自ら
 數校を重ね遺漏誤植なきを期したり。然れども剗削成りて後之を閱するに自ら意に滿
 たざるもの決して尠しき爲さず。況んや博雅の君子此書を見るに於てをや。希くは愚
 憚なき叱正を給ひて本書の瓦全を他日に期するを得んことを。

大正四年十月十七日

改定經濟學講義 第二版 序

元

本書誤つて大方の寛容を受け初版旬日にして盡き今茲に第二版を重刷す。著者は印刷の校正には特に意を用ゐたる所存なりしも猶ほ既に若干の誤植脱字を發見したり。乃ち本版に於ては十數ヶ所に涉りて訂正を加へたり。而して其半以上は學友車谷商學士の教示にかゝるものとす。予の著書の一切に涉りて懇篤なる注意を惠まる、學士の如き友人を有することは予の常に誇る所なり。茲に特記して感謝の意を明にす。右訂正以外猶ほ誤謬誤植の類必ず多々なる可し。讀者幸に此正の勞を惜むなからんを切望す。凡そ一事一語の誤なりとも予は之を見出す限り重刷の機會に於て必ず訂正せんことを期するものなり。

本版には試みに第一卷に對する件名索引及人名索引を作りて附載したり。人名以外の固有名詞（地名國名の類）は並びに之を件名索引に收め成語の排列は凡てABC順によれり。讀者に取りて若干便利を供することあらば幸甚し。但し本書全部成るを待つて更らに總索引を作成して巻尾に附す可きは勿論なり。

大正四年十二月二日

續經濟學講義 序

本書は拙著經濟學講義の續篇にして、經濟理論の後半部流通理論を叙述して經濟原論の全體を盡さんとす。前著はマーシャル教授の名著に據り之に論評を加へつゝ、卑見を披瀝したるものなるが、今此書は過去數年間商量し、熟考し、鍛鍊したる自家の思想を陳述するを趣意としたり。殊に茲に公けにする第一編は流通生活に關する根本見解を示めし、兼てマルクス研究に費やしたる若干の年月と多少の思索との結果を載す。先覺學者の此正を得ば幸なり。

大正二年四月二十一日

再版例言

再版は初版出來後數日にして印刷せしものなれば書中若干の誤植を訂したる外全然初

元

版を異るなし。江湖春願の厚きは深く謝する所なり。

大正二年五月廿一日

國民經濟原論 再版 序

國民經濟原論總論は去三十六年中の出版に係り以來久しく絶版なり居りしものを、此度書籍の需に應じ、書中若干の誤植を訂正し、單行本としく重刷するものにして、他日予が續經濟學講義の業終るの後、全く新なる態に於て續て公けにせんとする國民經濟原論の素地を成すものなり。猶本書の性質成立等に就ては既刊經濟學講義の序文中に陳述し置きたれば、今茲に贅言せず。

明治四十二年十一月

經濟學教科書 第一版 序

- 一 經濟學は記憶力のみには依りて學ぶ可き教理にあらず、必ず推理力の涵養を主とせざる可からざる學問なり。
- 一 此書は右の考を以て斯學の極要點のみを簡明に説述せんことを企つるものなり。
- 一 文部省の定めたる甲種商業學校經濟學教授要目の中、原論の部は大體に於て無難の作なり（政策の部は極めて不備頼る可からず）。故に此書は可及たけ之に準據せり、但し著者の見解に合はざる部分は總て改めたり。
- 一 此書を教科書として使用する教師各位は豫め全篇を熟讀玩味し、其主眼の點を捕捉し、たる後適宜布演説明せられたし。此書の語句のみに拘泥するときは或は學生を過つ事なきを保せず。
- 一 此書を参考書とする高等學生にありては、同種類の他書を併せ讀まば、著者の眞意を悟了するに於て大に助を得可し。
- 一 著者が他人の著書に束縛せらるゝことなく、全部自己思考の結果を記録したるは、此書を以て始まず。故に誤謬缺陷甚だ多からん。謹で篤學君子の教を待つ所なり。

明治四十四年十月二十四日

同訂正 第三版 序

此書上梓以來學友の益言を享くること尠からず。就中山崎、堀江兩博士は獨逸の本位制度に就て、上田博士、車谷、米澤兩學士は字句の不穩當なるもの並に誤植に就て、著者を教へられたること最も多し。訂正版に於ては此等の點に就て改む可きは悉く改め置けり。また關博士、小泉、寺尾兩教授の批評文は著者の蒙を啓くこと一二にして止まらず。併せて深謝の意を述ぶるものなり。

明治四十五年三月

經濟原論教科書 序

此書は去明治四十四年に刊行したる經濟學教科書を全篇に互りて添削校訂し且つ政策篇を區別する爲め書名を經濟原論教科書と改めて新たに割刷に附したるものなり。著述の趣意は別掲著序文に述べ置きたる所に添はずし雖も其後斯學の進歩と著者所

見の變遷とに伴ひ内容には稍と著しき補正を施したり。殊に第一編第一章基本概念は全く其趣きを改め以下の諸章何れも之れに照應す可く修正し第三編流通の諸章就中貨幣及價格の兩章并に結論には推敲剪裁を加へたる所鮮からず。斯くして著者は其微力の及ぶ限り本書を斯學最近の進歩に後れざらしめんと期したり。然れども著者識乏く學淺く最善の注意を以てするも猶及ばざる所多く誤謬不備の點一二にして止まらざる可きを惧る。伏て大方の是正を俟つ所なり。因に本書末段述ぶる所の旨に基き經濟政策教科書を公刊して本書の續篇とする必要を感じりし雖も著者學窓匆忙加ふるに近來健康意の如くならずして著述の餘力を有せず。他日幸に健康恢復し且つ餘閑を得ることあらば稿を整へて世に見ゆるの折あらんことを期するものなり。

大正十三年十二月二日

中野本郷 實事求是書屋に於て認む

經濟學全集
第一集

經濟學講義 目次

經濟學講義

第一編 總論	一—二四
第一章 緒言	一—三
第一章 補論	一四—三〇
第二章 産業の自由並に企業の發達	三一—五
第二章 補論	五—六七
第三章 英國に於ける産業自由並に企業の發達	六七—九
第三章 補論	九—一〇五
第四章 經濟學の發達	一〇五—一三四
第四章 補論	一三四—一四

第五章 經濟學の範圍……………二四七—二五八

第五章 補論……………二五八—二六六

經濟學の本體……………二六六—二八六

經濟生活の動機は貨幣額を以て稱量す(二六六)——經濟現象の内容的
統一(二六〇)——外形の間接測定(二六〇)——個人的差違(二六七)——經濟行
爲の合理行爲(二六六)——營利以外の衝動(二六六)——科學としての經濟
學の要求(二七〇)——經濟二様の意義(二七〇)——『經濟的』てふ概念(二七〇)
——經濟の本則(二七六)——餘剩利用及所得(二七六)

第六章 科學としての經濟學……………二八六—三〇六

第六章 補論……………三〇六—三二四

經濟學上の法則……………三二四—三三〇

總論 附錄 經濟學研究の葉……………三三五—三九四

第二編 經濟學の根本概念……………三九五—四二九

第一章 緒論……………二九五—三二二

第一章 補論……………三二二—三三九

第二章 富……………三三九—三九九

第二章 補論……………三九九—三七四

第三章 生産・消費・勞働……………三七四—三八七

第三章 補論……………三八七—三九四

第四章 所得と資本……………三九四—四二二

第四章 補論……………四二二—四三九

第三編 欲望と其充足 (需要論)……………四三九—四五三

第一章 緒論……………四五三—四六六

第一章 補論……………四六六—四九九

第二章	欲望と經濟行爲	四〇〇—四〇八
第二章	補論	四一九—四三〇
第三章	消費者需要増減の理	四四三—四五九
第三章	補論	四六〇—四六六
第四章	需要伸縮の法則	四六六—四八二
第四章	補論	四八三—四八五
第五章	限界利用均等の法則	四八六—五〇三
第五章	補論	五〇四—五〇八
第六章	價格と利用	五〇九—五二二
第六章	補論	五二三
第四編	生産の働因 (供給論)	五三三—七〇五
	土地・勞働・資本及企業	

第一章	緒論	五三三—五四七
第一章	補論	五四七—五四八
第二章	生産要素としての土地の特質 (不變性)	五四九—五五五
第二章	補論	五五五—五五八
第三章	土地の豊度 (可變性)	五五八—五五九
第三章	補論	五五九—五七〇
第四章	收穫遞減の法則	五七一—六〇六
第四章	補論	六〇六—六二七
第五章	人口の法則	六二七—六五四
第五章	補論	六五五—六六五
第六章	資本の増殖	六六六—六八一

第六章 補論	六六一—六八二
第七章 勞働効程の増進と分業	六八二—六九六
第七章 補論	六九六—六九七
第八章 マーシャルの企業論	六九七—七〇五
第八章 補論	七〇五
第五編 流通總論	七〇七—八六四
第一章 緒論	七〇七—七二七
第一章 補論	七二七—七三四
第二章 流通生活の意義	七三四—七五二
第二章 補論	七五二—七五九
第三章 流通生活の動力	七五九—七七七

第三章 補論	七六八—七六九
第四章 貨幣經濟と企業	七六九—八二五
第四章 補論	八二五—八三三
第五章 餘剩價値と利潤	八三三—八四九

國民經濟原論

第一編 國民經濟の根本概念	八五五—一〇五三
---------------	----------

第一章 分觀の概念	八六六—一〇〇一
-----------	----------

國民經濟を形成する最根本的の概念——經濟と經濟行爲の說明
 に関する諸説——欲望——欲望の増進と人類の幸福——財

絶對的財と相對的財——内外の財——權利、有利關係は財にあ
 らず——勞働給付亦然り——自由なる天然の賜物——經濟
 的ならざる欲望——經濟上の財の然る所以——有限性にあり
 と云ふは誤なり——財と占有——有價的の獲得——技術と
 經濟との差異に關する謬說——贏得——經濟上の價值——
 主觀的觀念なり——交換と分業——交換財——商品——
 交換價值——亦主觀的なり——商業——價格——貨幣
 價值の標準なり——交換の要具なり——價值保藏の要具
 なり——公認せられたる支拂要具なり——客觀的價值又は價
 格は一定の貨幣額にて言表はさる——客觀的の使用價值と客觀
 的の交換價值——物價——所有權の價と見るを要す——價格
 の客觀的たる所以——貨幣に對する特殊の欲望——貨幣經濟
 賣買——信用——營利又は貨殖の行爲が經濟行爲の特
 色となる——自己生産顧客生産市場生産——技術と經濟との
 差異の真相——經濟本則を經濟行爲と混同するの誤謬——
 經濟の概念——經濟と經濟行爲との關係——經濟主體、經濟單
 位、經濟組織——經營と企業——企業と經濟とを混同するの誤

第二章 集觀の概念

.....1001—1054

認——其區別の困難なる實際の場合——其分離の原因——
 經濟行爲の成果としての收穫、生産費、純收穫、收入所得——自足主
 義と營利主義——財産の概念——享樂財産と營利又は生産財
 産——資本——貸子——所得の種類——傳來的又は第二
 次所得は所得にあらず——公經濟的收入と云ふことの誤謬なる
 所以——經濟階級——社會問題——等族と經濟階級

經濟組織と經濟單位——其現實の狀態——社會團體と其經濟
 經濟の三種類——其一、特殊經濟——其二、綜合經濟——
 其三、共同經濟——共同經濟と共產制經濟との異同——國
 民經濟は經濟組織にして經濟單位にあらず——國民經濟は社會
 的の秩序組織なり——分業と交換とは其の不可缺前提條件なり
 國民經濟と文化の發展——物質的史觀論——國民經濟
 の職分——其自身の職分——經濟上の利己主義——國民經
 濟存在の理由概括

第二編 經濟組織の發展

.....1055—1154

緒言……………二〇五—二〇六

第一章 生産の形態より觀たる經濟組織の發展……………二〇六—二〇九

リストの生産五階段説……………其缺點……………グロッセの新研究

第一、低度の漁獵民……………第二、高度の漁獵民……………第

三、低度の農民……………第四、牧畜遊牧の民……………第五、高度の農民

————有機的發展階級としての觀察

第二章 交換の形態より觀たる經濟組織の發展……………二〇九—二二四

自然經濟……………其二様の意義、自足經濟と當物交換……………自然

經濟と名くる理由……………貨幣經濟……………信用經濟……………之

れを一時期と劃するは不當なり

第三章 生産と消費との關係より觀たる經濟組織の發展……………二二四—二三二

————アンヒアールの新説……………シヌモラーの所論……………三期を劃す

自足經濟都市經濟、國民經濟の特色

第一節 自足經濟……………二二七—二四〇

生産經濟と消費經濟との合致……………土地は最重要の要素なり

————經濟單位あるのみ、經濟組織は存せず……………氏族經濟の

崩壞……………此れを緩和せる二個の新現象、其一、奴隸制度

————其二、人爲の部分的經濟單位としての一種の協同經濟の發生

————自足的莊園經濟……………交換の發生

第二節 都市經濟……………二四一—二八二

顧客生産の發生……………市……………都市の發生……………其發達

————商人の發生……………都市と莊園并に村落との差異

————都市特有の法……………都市と中央の主權……………動産漸く重要を

加ふ……………其結果……………都市經濟政策を始む……………其一、中

問商業の禁止……………其二、自足生産……………其排外的性質

————職業分立起る

第三節 國民經濟……………二八三—二三三

民族的統一國家の發生……………生産力の増進之れに照すべき經濟

組織の擴張と經濟單位の縮小——國民經濟發生の順序——
 國家經濟(又は政治經濟)が其最初の形態なり——其執りたる政策即ちメルカントル・システム——其採用せる手段——
 植民政策と貨幣政策——富と貨幣を混同したりとの非難は却て謬なり——資本制生産の發生と資本の發生利子と貸借企業の成立——生産費の節約と自由競争——世
 界經濟——國民經濟成立の三時期、其一、專制主義の時期——其二、自由主義の時期——其三、民族主義の時期——世界政策と帝國主義——民族主義の時期は又社會的時期と稱するを得——以上の總括——以上三時期の特徴比較、其一、勞働協合——其二、生産と消費との關係——其三、經濟單位と經濟組織——其四、企業と家計——其五、勞働關係の形態——其六、貨幣——其七、資本——其八、所得と財産——其九、分業——其十、工業——其十一、企業——其十二、商業——其十三、交通——其十四、信用——アムヒア
 一の所論に對する異論——其誤解

第四章 生産の主義より觀たる經濟組織の性質の發展……………三三一—三三七

經濟階級——經濟制度——經濟形態——經濟主義
 附表

關係書目……………三三九—三五二

經濟原論教科書

第一編 緒論……………二五—二六八

第一章 經濟の基本概念……………二五—二六六

第一節 計慮の行爲……………二五—二五五

經濟行爲——經濟組織——欲望充足の準備——計慮——商

量——適合

第二節 厚生之努力……………三五五—三五九

人格性之個人性——共同生活——目的と手段——物と力——
有限不足の三種——自然上の有限不足——技術上の有限
不足——技術と經濟——社會上の有限不足——厚生之努力
——厚生之努力の對象

第三節 利用・費用の計慮……………三五九—三六一

計慮の標的——經濟的——利用——利用の大小——費用
——利用の得表——餘剰利用——收益又は所得獲得的

第四節 價 値……………三六一—三六四

自己及他人の力——勞働——勤勞——價值——價值評量
——價值と利用——價值の大小——價值社會——社會的
計慮——市場——無差別の法則——市場計慮

第五節 貨幣及貨幣經濟……………三六四—三六六

價值社會の組織——計慮の單位——貨幣——貨幣商量貨幣
適合——收支の適合——價值の移轉——貨幣價值——貨
幣經濟——經濟の目的——最基本的概念

第二章 個人經濟・國家經濟・國民經濟……………二七〇—二七三

第一節 經濟組織及經濟單位……………二七〇—二七九

種々の經濟組織——氏族經濟——經濟單位——集化及分化
——經濟主體——經濟組織に主體なし——特殊經濟綜合經
濟・共同經濟

第二節 個人經濟及國家經濟……………二七九—二八二

個人の意義——家族經濟——企業及國家經濟——生産單位
と消費單位——共同充用——國家經濟の主體及機關——家
族經濟の主體

第三節 國民經濟……………二八二—二八六

主體なき綜合經濟——統一的國民——國民經濟と國家經濟と

の差別——政治的經濟・社會經濟——國民經濟成立の條件——
 —自然的條件——社會的條件——國民經濟活動の條件——
 國民經濟の定義

第三章 國民經濟の發達

第一節 國民經濟發達の條件

間接の條件と直接の條件——領土の發達——人口の發達——
 —財產私有制度の發達——財產共有——經濟上の自由の發達——
 —強制的共同——奴隸制度

第二節 經濟發達の順序

直接の發達條件——自足經濟と流通經濟——右の意義——
 男女間の分業——交換の起源——物々交換——交換に基く
 區分貨幣に基く區分——物々交換の真相

第三節 我邦經濟發達の概略

發達の大勢——氏族經濟の時代——貢獻——朝鮮との關係

——支那文明の輸入——班田の制——莊園——莊園經濟
 ——封建經濟——鑄錢の輸入・支那貿易——豐臣氏——江
 戶幕府——國家自足經濟——鎖國主義——明治維新——
 日清日露役——家族都市・國民經濟の説

第四章 經濟學の意義及部門

定義——歷史的研究——社會倫理的研究——學派——倫
 理歷史學派——個人主義學派——經濟學の分類

第二編 生産

第一章 生産總論

第一節 生産の意義

生産は利用を生ずることあり——自然狀態變化の二種類——
 人間の意志及働きの有無——生産の定義——技術及技術上の
 生産——經濟上の生産——利用と費用——價值——經濟
 學上の生産

第二節 生産の歴史上の種類……………二九四—二九五

生産の三種——自給生産——社文生産——商品及商品生産
——自給生産を消費と看做す

第三節 生産の實際上の種類……………二九五—二九七

職業及營業——人口の統計上の分類——職業の分類——狭
義の生産——廣義の生産——生産的職業

第二章 生産の要素……………二九八—二九九

第一節 生産の根本的要素……………二九九

發動實行、受動

第二節 生産の實際上の要素……………二九九

企業と資本——差異の要點

第三章 企 業……………三〇〇—三〇四

第一節 企業の發達……………三〇〇—三〇四

企業なき時代——勞働行程と價值行程——主從的分業——
助産の發達——資本的勞働の發達——手工業——資本的農
業の發達——企業の成立——企業の起源

第二節 企業の意義……………三〇四—三〇六

企業の定義——價值行程——餘剩價值——經營と分立——
——企業の任務——企業家の三資格

第三節 企業の形態……………三〇六—三〇八

企業の五形態——個人企業——會社企業——會社の種類——
——法律上の異同——經濟上の異同——會社企業と個人企業
との比較——株式合資會社——有限責任會社——組合企業
——團體企業——合同企業——「カルテル」——「トラス」

第四節 經營の形態……………三〇八—三〇九

大經營中經營、小經營——其得失——性質上の四形態——歴

更上の順序——「ファクトリー」——「マニユファクチュア」

第四章 土地

第一節 土地の性質

技術上の三性質——經濟上の二性質——面積及地位——氣
候的事情——豊度——物理的成分——化學的成分——無
機物——有機物——耕耘肥料——個有性と資本性

第二節 收穫遞減の法則

定義——例證——最小率要件の法則——土地と労働及資本との關係

第五章 労働

第一節 労働の意義及種類

定義——廣義の労働——狹義の労働——種類

第二節 労働の増進

數量的及品質的増進——數量的増進——自然増加——出生
數——死亡數——移民數——マルサス氏の人口法則

労働者數——品質的増進——生産効程——労働心刺戟の四
要點——労働條件の三要點

第三節 労働の組織

種類——分業——職業分業——專業分業——生産分業——
作業分業——協業——結合協業——集合協業——單
純なる集合協業——運業——同調連業——交調連業——
兼業——分類表——分業の利益——協業の利益——兼業
の利益——弊害——労働組織と資本との關係

第六章 資本

第一節 資本の本質

定義——自己倍加——非資本——収益力——土地と資本
との異同——資本性の附與——貯蓄と資本との關係——貯
蓄に關する誤解

第二節 資本の種類……………一三五—一三六

固定資本——流通資本——資本の種類と企業形態との關係——來他の種類別

第三編 流 通……………一三七—一四四

第一章 總 論……………一三七—一四一

第一節 流通の意義……………一三七—一三九

定義——交換及分配——流通と生産との關係——交通——價値の移轉——取引——商業

第二節 市 場……………一三九—一四一

定義——需要供給——市場の種類——取引の種類——定期取引——取引所——定

第二章 貨幣及信用……………一四一—一四〇

第一節 貨幣の意義……………一四一—一四二

定義——一方的相互的流通——交通の要具——買賣——支拂——取引の要具

第二節 貨幣の材料及其發達……………一四三—一四九

貨幣材料の備ふる性質——貨幣の起原發達——對内貨幣——對外貨幣——物々交換との關係——原始の貨幣材料——稍々進歩せる貨幣——金屬——商品貨幣——鍛冶術の進歩——秤量貨幣——鑄貨の發生——通貨通貨——鑄貨の材料——印度との貿易より起る——鑄貨と國權との關係——鑄貨高權——造幣特權——後藤家

第三節 本位制度……………一四九—一五〇

定義——法律上の貨幣——法貨——本邦貨幣制度——本位制度——單本位複本位——金單本位の普及と英國との關係——本位貨以外の法貨——制限法貨——補助貨幣——無制限法貨——自由鑄造——非自由鑄造法貨——跛行本位

第四節 ダレシヤム法則及鑄貨制度……………一五〇—一五七

ケレンシアム法則の定義——其實例——ケレンシアム法則と複本位制度——不換紙幣との關係——惡貨の取締——公差——輕量貨幣——無効貨幣——通用最輕量目——無手數料引換

第五節 紙幣及銀行券……………三五六—三六六

紙幣の定義——種類——兌換紙幣——不換紙幣——法貨
 たらざる不換紙幣——強制公債——法貨たる不換紙幣
 銀行券——定義——紙幣との異同——發券制度——發券
 銀行單一制複合制——發券額の制限——兌換準備の制度——
 正貨比例準備制度——保證準備限定制度——保證準備伸
 縮制度——我邦の制度——制限外發行——在外正貨——
 一變態——有名無實なる本位制度——金の鑄潰し及國外輸出
 の禁——我邦の現在——金拂下價格の變更——名實共に不
 換券國

第六節 貨幣の價值即ち購買力……………三六六—三七六

對内價值對外價值——對内購買力——金屬主義——名目主

義——布告主義——固定主義——兩說合致する場合——
 物價指數——金屬の價值と鑄貨の價值——我邦の現狀——
 人為的強制——其の撤去——對外價值——購買力平價說——
 日米の關係——結局の一致——貨幣價值の公式——其
 の説明——信用の作用——貨幣數量說——諸種の謬見

第七節 信用……………三七六—三八〇

信用取引——信用の定義——信用と信任の別——消費貸借
 代替的對價——信用と貨幣との關係——信用と物價との
 關係——信用券——銀行——信用の種類——信用の利
 害——信用經濟——信用と銀行

第三章 價 格……………三八一—四〇三

第一節 流通の原理……………三八一—三九四

流通原理の説明——表解——外國貿易と國內交換——貨幣
 の利用——等價關係の誤謬——交換と主觀的評量

第二節 價格の意義……………一三六四—一三六五

定義——價格と貨幣價值との差異

第三節 價格の本質……………一三六五—一三六六

客観的數量にして主観的評量にあらず——價格は比例にあらず

第四節 價格と價值……………一三六七—一三六八

交換價值の誤説——價值は價格の一事情のみ——價格相互の比較

第五節 價格決定の諸事情……………一三六八—一三六九

甚だ複雑なり——需要供給の原則——細説の必要

第六節 需要供給の品質上の強弱……………一三六九—一三七〇

需要供給の強弱——利用の大小——利用遞減の法則——限界利用、限界分——利用遞増の法則——兩則の結合——利用不易の法則——全利用と限界利用——費用の大小——新たに生産し得る財と然らざる財——再生産費——容易に再生産

し得る財と然らざる財——定時最高生産費長期最低生産費の法則——費用遞増遞減不易の法則——土地の産物と工業品

第七節 需要供給の數量上の大小……………一三七〇—一三七九

需要供給の數量

第八節 貨幣利用及支拂能力の大小……………一三七九—一三八〇

貨幣利用及支拂能力——信用の作用

第九節 限界剩餘收益均等の法則……………一三八〇—一三八一

價格決定の幅——力の關係——價格——限界對偶——限界剩餘收益均等の法則——價格決定の最終原則

第十節 物價相關の傾向及價格推移の理法……………一三八一—一三八三

物價相關の傾向——價格系體——價格推移の理法——歴史的背景

第四章 所得……………一四〇三—一四一九

第一節 所得の意義……………一四〇三—一四〇四

分配の定義——所得の定義

第二節 所得の淵源及種類……………一四〇四—一四〇五

第一淵源——第二淵源——第一淵源に基く所得の種類——
第二淵源に基く所得の種類

第三節 所得と價格……………一四〇五—一四〇八

所得を中心とする經濟生活の區別——最終の標準は所得の大小
なり——貧富の意義——國民經濟の最大問題——所得は一
の價格なり——價格と所得の差異

第四節 契約所得の特性……………一四〇八—一四一〇

實力の強弱——契約所得の種類——引渡契約所得——貸借
契約所得——勤勞契約所得——以上三種に於ける實力強弱の
度合——引渡所得——貸借所得——勤勞所得

第五節 強制所得の特性……………一四一〇—一四一一

強制所得の種類——強制所得と價格の法則

第六節 殘高所得の特性……………一四一一

殘高所得の特性——「インフレーション」

第七節 分配に關する通説……………一四一一—一四一三

所得の種類——地代學說——需要供給學說

第八節 地代及利息……………一四一三—一四一五

殘高の原則——地代の特性——其他の賃貸料——利子——
——利息制限法

第九節 勞 銀……………一四一五—一四一八

勞銀の本質——協約所得——勞銀の特性——勞銀の形態——
——雇傭契約の特性三あり——其矯正の必要

第十節 利 潤……………一四一八—一四一九

利潤の本質——利潤と勞銀の關係——社會問題の意義

第五章 結 論……………一四一九—一四二四

價格及所得の調和——恐慌及其種類——其原因——過超生
 産の意義——景氣の循環——生産と消費の不調和——資本
 の形成と充用の不調和——其原因——經濟パロメータ―指數
 調査——貯蓄及消費——奢侈——經濟政策、社會政策

人名索引……………一一〇
 件名索引……………一一一

經濟學全集 第一集 經濟學講義 目次終

經濟學全集
第一集
經濟學講義
人名索引

索引 (其一)

——人名索引——

A

阿部秀助 1195, 1207.
 天野爲之 292.
 天照大神 1287.
 アモン(アルフレッド)(Ammon, Alfred) 733.
 アンダーソン (Anderson) 114.
 アンシオア (Ansiaux) 269.
 アントアン (Antoine) 270, 273.
 アーガイル (Argyll, Duke of) 903, 996.
 有賀長雄 1012.
 アリストテレーズ (Aristoteles) 4, 34, 42, 106, 746 7, 912, 933, 946, 1018, 1061——の奴隷存続の理由 1136.
 アシユレー (Ashley) 54, 92, 94, 97, 218, 227, 250, 278, 283, 1101, 1152, 1158, 1163, 1168, 1169, 1171, 1177, 1189, 1191.——の經濟階段説 59.
 アウスピッツ (Auspitz) 485.
 東普太郎 140.

B

バゲョット (Bagehot) 33.
 バンフィールド (Banfield) 436.
 ボールガール (Beauregard) 270, 292.
 ベーア (Beer) 1188.
 ベロー (Below) 796, 1165, 1168,

1175, 1228, 1230.
 ベンタム (Bentham) 118.——の學説 119.
 ベルグソン (Bergson) 734.
 ベルヌーキ (Bernoulli) 520.
 ビーテルマン (Biedermann) 1189.
 プラン (Plane) 127.
 ブランド (Bland) 94.
 ボエム・バグエルク (Böhm-Bawerk) 133, 346, 354, 369, 404, 417, 505, 508, 679, 891, 920, 995.——の利子論の缺點 509.
 ボードー (Baudeau) 113.
 ボーナー (Bonar) 30, 140, 625, 639, 645, 657.
 ボアロー (Boileau) 527, 531.
 ブラッドレー (Bradley) 94.
 ブレンタノ (ルヨ) (Brentano, Lujo) 20, 130, 144, 228, 316, 430, 434, 437, 441, 485, 504, 565, 573, 640, 642, 657, 686, 710, 713, 733, 875, 885, 909, 1005, 1043, 1082, 1185, 1206.——の經濟學研究法 131.——のマルサス評論 650.——の創造の欲望 441.——の土地の性質 561.——欲望の分類 440.
 ブロドニツ (Brodnitz) 94.
 ブルネル (Brunner) 1095.
 ブリー (Bry) 93.

人名索引

バックル (Buckle) 34, 51.
 ブュヒアー (Bücher) 33, 53,
 56, 63, 73, 193, 690, 798, 961,
 1005, 1068, 1070, 1082, 1091,
 1104, 1114, 1145, 1158, 1166,
 1172, 1179, 1327. —の経済
 階段説 60. —の三経済説 61.
 —の専制的國民經濟の時代
 67. —の經濟組織發展の三時
 期 1115, 1218-1227. —の都
 市(獨逸)に就て 1171.

C

ケルズ (Cairnes) 227.
 キアナン (Cannan) 138, 523,
 547, 593, 606, 627, 648, 657,
 685, 691.
 カンチヨン (Cantillon) 146.
 ケリー (Carey) 127, 605, 616,
 1044.
 カーライル (Carlyle) 154, 170,
 873.
 カーヴァー (Carver) 266. —
 の經濟學の説明 298.
 カッセル (Cassel) 133, 217,
 273.
 コヴェス (Cauwès) 132, 270,
 272, 938.
 チャップマン (Chapman) 264,
 265, 733.
 シェリユール (Cheruel) 1185.
 チャイルド (Child, Sir Josiah)
 679.
 晁錯 948.
 クラーク (Clark) 132, 266, 267.
 —の資本と資本財 413.
 コーン (Cohn) 27, 260, 566,

924, 967, 1141. —の原論の
 編成 429.
 コルベア (Colbert) 1031. —
 主義 1192.
 コルソン (Colson) 270.
 コント (Comte, August) 126,
 147, 188.
 コーク (Coke) 603.
 コンラッド (Conrad) 263. —
 辭典 234. —年報 290.
 コッサ (Cossa) 138, 229, 429.
 クールノ (Cournot) 127, 460.
 クヘル (Cûhel) 441.
 カンニングハム (Cunningham) 53,
 92, 94, 95, 1105, 1145, 1157,
 1163, 1170, 1177.
 カートラー (Curtler) 95.
 クストザ (Custosi) 236.

D

ダマシユケ (Damaschke) 141.
 デーヴンポルト (Davenport) 266.
 ダルウキン (Darwin) 654. —進
 化論の影響 126.
 ダヴナン (Daveant) 478.
 太宰春臺(純) 946-7, 1033.
 デシエヌ (Dechéne) 95.
 デニス (Deni) 141.
 ディール (Diehl) 393, 548. —
 の財論 365.
 ディーツェル (Dietzel) 217, 354.
 ディルタイ (Dilthey) 23, 227.
 デュリング (Dühring) 141.
 デュボン・ド・ヌムール (Dupont
 de Nemour) 113, 146.
 デルケーム (Durkheim) 1182.

E

エテン (Edon) 118.
 アイゼンハート (Eisenhart)
 141.
 エーレンフェルス (Ehrenfels)
 441.
 エルスター (Elster) 274.
 エンゲルス (Engels) 835.
 エーラー (Euler) 634.

F

ヘッター (Fetter) 266, 269,
 417.
 ラエラリ (Ferrari) 1174.
 フィッシュアー (Fisher, Irving)
 132, 266, 418, 681, 733.
 フォルボネー (Forbonnais) 1185.
 フリエー (Four'er) 127.
 フレーザー (Frazer) 237-8.
 フリーマン (Freeman) 1152.
 フックス (Fuchs) 22, 378,
 384, 866, 883, 885, 908, 1020,
 1076. —經濟學の出立點 313.
 —の經濟學てふ概念 177.
 藤森峰三 1007.
 藤原氏 1284.
 福澤諭吉 292.
 フュステル・ド・クーラングユ
 (Fustel-de-Coulanges) 1127.

G

ガルニエ (Garnier) 95.
 ゲレアスノフ (Geleasnoff) 133,
 273.
 ゲエノヴェジ (Genovesi) 1191.
 —の民事經濟 1190. —民

間經濟 66.
 ゲングラー (Gengler) 1169.
 ギッピンス (Gibbins) 93.
 ギッド (Gidd) 132, 133, 270,
 603, 1119.
 ギーアケ (Gierke) 1175.
 ギッフェン (Giffen) 520.
 ゴドウィン (Godwin) 643.
 ゴールドシュミット (Goldsch-
 midt) 913, 921, 929.
 ゴルツ (Goltz) 580.
 権田保之助 1115.
 ゴナール (Gonnard) 136.
 ゴンナー (Gonner) 270.
 ゴッセン (Gossen, Herman
 Heinrich) 460-5, 460, 494,
 502. —の享樂に就て 433.
 —の人間行爲の根本原則
 462. —の人間行爲の三原則
 464.
 グロース (Gross) 101, 663.
 グロツセ (Grosse) 782, 965,
 1063, 1077, 1083, 1085, 1091,
 1092, 1095, 1097. —の新研
 究(生産形態の) 1064. —の
 訂正説 59.
 後藤家 1348.
 グレー (Gray) 182.
 グラチアニ (Graziani) 273,
 276.
 グリーン (Green) 160.
 ギヨー (Guyot) 216.

H

ヘブラー (Häbler) 1186.
 ヘツケル (Häckel) 189.

ハーン (Hahn) 1018, 1076.
 ハーネー (Haney) 142.
 ハスバツハ (Hasbach) 93, 543.
 ハチソン (Hutcheson) 114.
 ヘルン (Hearn) 442.
 ヘーゲル (Hegel) 34, 44, 72, 101, 183, 1168.
 ヘルド (Hell) 81, 101.
 ヘラー (Heller) 143.
 ヘルクナー (Herkner) 131.
 ヘルマン (Heumann) 129, 231, 441, 820, 873, 880, 897, 928, 955, 981, 987, 998, 1016. — の欲望の分類 439. — の財 323-4.

ヘイスラー (Heusler) 1163.
 ヒューキンス (Hewins) 96.
 ヒルテブランド (Hildebrand) 53, 130, 416, 1035, 1110. — の経済組織發展三階段説 1099. — の三経済説 59.
 ヒルツァーゲンク (Hilferding) 418, 745, 754, 761, 763.
 ホブソン (Hobson) 265.
 ホッダスキム (Hodgskin) 823, 833, 835.
 ホーフゲンク (Höfding) 28.
 ホランダール (Holander) 238, 615.
 本庄榮治郎 664.
 穂積陳重 1140. — 五人組制度 1141.
 ヒューム (Hume) 114.

I

飯島幡司 271.
 稻垣乙丙 601.

イナマ・シュテルネツク (Inama-Sternegg) 1094, 1145, 1165, 1165.
 イングラム (Ingram) 135.
 井上瑞枝 659.
 石川昭 278.

J

ヤストロー (Jastraw) 237.
 ジェヴオンズ (Jevons) 127, 227, 231, 333, 411, 442, 461, 485, 493, 507, 540, 541, 547, 672.
 ジュルン (Journe) 270, 273.
 ジョウエツト (Jowett) 145.

K

神戸正雄 238.
 神田孝平 292.
 金井延 21, 31, 133, 27, 223, 292, 653, 881, 883, 885, 895, 970, 1206. — の貨物経済 1107. — 経済學の定義 19. — の自然経済 1105.
 管仲 1037.
 カント (Kant) 23.
 カウツ (Kautz) 44.
 河田嗣郎 276, 292, 1065.
 河上肇 144, 186, 229, 230-242, 276, 292, 753, 1035.
 ケラー (Keller) 862.
 ケーンズ (Keynes) 226, 429.
 キーセルバツハ (Kieselbach) 1122, 1185.
 氣賀勘重 31, 259.
 キング (King) の法則 473.
 クナツプ (Knapp) 1145.

クニース (Knies) 29, 102, 130, 227, 800, 896, 906, 933, 937, 940-1, 1033, 1076, 1109, 1112, 1114, 1117.
 ノールス (Knowles) 96.
 小林丑三郎 292.
 小泉信三 281.
 孝徳天皇 1135.
 コヴァレフスキー (Kovalevsky) 1007.
 クラウス (Kraus) 442.
 栗田寛 1012, 1131, 1136.
 黒岩周六 189.
 桑木巖翼 193.

L

ラファルグ (Lafargue) 1122.
 ラムプレヒト (Lamprecht) 189, 193, 1168.
 ラヴェレ (Laveleye) 874, 1005, 1127, 1129.
 ルロア・ホリエール (Leroy-Beaulieu) 132, 272, 1044, 1186.
 レスリー (Leslie) 227.
 レーザー (Leser) 1196.
 レウキンスキー (Lewinky) 143.
 レキシス (Lexis) 261, 733, 1196.
 リーフマン (Liefmann) 20, 132, 187, 466, 494, 567, 746, 774, 776-7, 842, 863.
 リンドヴキルム (Lindwurm) 872, 1024. — 経済學の出生點 312.
 リツパート (Lippert) 1099.
 リプソン (Lipson) 96.

リスト (List) 123. — の生産五階段説 58, 1060.
 ロック (Locke) 670, 772.
 ロリア (アキレ) (Loria, Achille) 21, 133.
 ルカス (Lucas) 96.
 ルキセンブルグ (Luxemburg) 418.

M

マカロック (McCulloch) 121, 140, 693.
 マルサス (Malthus) 118, 527, 614, 629, 641, 1071. — の道徳的抑制 646. — の人口論 622, 643, 654. — 人口論の誤謬 649. — 人口論の版本 278. — 人口論の骨子 623. — の價值 718. — 人口法則 645, 1323. 新——主義 652, 1043.
 マンゴルト (Mangoldt) 967.
 マーシャル (Marshall) 1, 4, 8, 13, 17, 24, 52, 57, 78, 100, 133, 203, 205, 209, 213, 243, 247, 263, 400, 434, 448, 474, 501, 525, 574, 576, 583, 686, 694, 701, 709, 738, 775, 776, 875, 897, 916, 926, 936, 979, 992, 1374. — の非有形物財 323. — の限界利用均等の法則定義 439. — 價値の定義 337. — 經濟學の特質 26. — 經濟學の定義 19, 299. — 經濟學の本體 181. — 經濟學研究の根本問題 223. — 經濟學の説明 303. — 經濟學叙述法表示 423. — の企業論 697.

—の個人富 331.—のマル
 サス人口論の要點 648.—
 の供給總論の要點—543.
 —の内界の財 348.—利用
 遞減法則の定義 446.—生産
 三働因の定義 533.—資本の
 定義 401.—資本の分類 403.
 —土地の特質 559.—の財
 の圖表 326.
 マルクス (Marx) 133, 414,
 418, 546, 548, 678, 733, 744,
 763, 767, 805, 807, 823, 825,
 827, 845, 847.—の物質的史
 觀論 1034-5.—の平均利潤
 850.—の根本學說 1035.
 —に関する著書 1035.—
 の交換の現象の形式 297.—
 の使用價值 820.—の商品に
 就て 821.—のスマス説の解
 說 838.—の餘剩價值 850,
 856.
 松本愛重 1004.
 メーヨ・スマス (Mayo-Smith)
 655.
 マイヤー (Mayr) 655.
 マイノング (Meinong) 441.
 メンガー (アントン) (Menger,
 Anton) 827.
 メンガー (カール) (Menger,
 Karl) 132, 186, 210, 342, 354,
 361, 417, 507, 508, 901, 902,
 1057.—の「關係」に就て 359.
 —の權利 346.—の財 304.
 —財の定義 356.
 メレデーヌ (Meredith) 96.
 マイヤー (Meyer, Eduard)
 1228-9.

ミル (ジェームス) (Mill,
 James) 523, 531, 725.
 ミル (ジョン・スタチュアート)
 (Mill, John Stuart) 126, 148,
 201, 206, 227, 257, 408, 530,
 667, 693, 900, 914, 949, 992.
 —の學說 127.—原論の版
 本 280.
 ミラボール (Mirabeau) 113.
 ミシュラー (Mischler) 986,
 989.—財の定義 886.
 ミツチエリヒ (Mitscherlich)
 739.
 三村鎮三郎 1082.
 三浦周行 1140.
 三浦新七 921.
 ミューアヘッド (Muirhead) 31.
 ミツクスター (Mixer) 753.
 宮下孝吉 1169.
 モール (Mohl, Robert von.) 139.
 モムセン (Mommsen) 44, 1131,
 1145.
 モンタナリ (Montanari) 901.
 モンテスキュー (Montesquieu)
 34, 51, 122.
 村瀬春雄 884, 976.

N

中山伊知郎 283.
 ノイマン (Neumann) 351, 392,
 380, 390, 392, 985.—の權利
 343.—の内界の財 348.—
 の財産 988.—の財の定義
 340.
 ニコルソン (Nicholson) 105,
 521, 776.
 ノース (North) 114.

ノヴァキ (Nowacki) 1076.

O

オーヘンコフスキ (Ochen-
 kowski) 76, 92, 1152.
 オルダーク (Oldershaw)
 281.
 オンケン (Oncken) 141.
 オッペンハイマー (Oppenhei-
 mer) 132, 609, 727, 732.—
 の經濟的てふ概念 176.
 オストワルド (Ostwald) 139.
 大塚金之助 256.

P

パルグレーヴ (Palgrave) 235,
 1212.
 パンタレオニ (Pantaleoni) 133,
 274, 275, 276, 485.
 パレト (Pareto) 133, 274, 460,
 485.
 パツテン (Patten) 132, 508,
 775, 918.
 パウルセン (Paulsen) 28, 875,
 1037, 1182.
 ペロ (Perreau) 271, 273.
 ペッシュ (Pesch) 262, 548, 580.
 ペティ (Petty) 114, 634, 980.
 ピエリソン (Pierson) 133, 274,
 276, 906, 950, 954.—原論
 の編成 429.
 ピグノー (Pigeonneau) 1148,
 1157.
 ピグー (Pigou) 21, 31, 133,
 283, 426, 676, 1274.
 ピンセロ (Pinsard) 274, 276.
 プラトーン (Platon) 42, 106.

プラッター (Platter) 262, 374,
 1071.
 フキリツボツキツチ (Philipp-
 vich) 750, 985, 1053, 1063,
 1102, 1107, 1112.—經濟學
 の分類 218.—經濟單位の說
 明 972.
 ポエールマン (Pöhlmann) 1127.
 フォーター (Forster) 121.
 プライス (Price) 93, 96, 135.
 プルドーン (Proudhon) 400,
 418, 1044.

Q

クネー (Quesnay) 112.

R

レー (Rae) 507, 736, 752, 786.
 —の蓄積の原則 737.—の
 資本の増殖 737.
 ラチンゲル (Ratzinger) 29.
 ラムボア (Rambaud) 136.
 ランケ (Ranke) 1189.
 ラシユダール (Rashdall) 152.
 ラツツェル (Ratzel) 52.
 ラウ (Rau) 417, 870.—經濟
 學出立點 312.
 ラウメル (Raumer) 1174.
 レース (Rees) 96.
 リカルド (Ricardo) 15, 122,
 178, 201, 211, 239, 253, 425,
 527, 592, 600, 616, 714, 725,
 734, 821, 825.—學說の要點
 716.—原論の版本 733.—
 の地代學說 1413.—の地代
 論 550.—の價値の本質 718.
 —の價値の定義 715.—の

経済理論 721.
 リツカート (Rickert) 181, 188, 190, 194.
 リダツク (Riddick) 97.
 ロドベルトス (Rodbertus) 418, 1127.
 ローナーズ (Rogers) 93, 101.
 ロツシア (Roscher) 24, 29, 44, 130, 137, 211, 236, 282, 422, 580, 870, 874, 885, 888, 967, 983, 1025, 1068, 1070, 1074, 1076, 1080, 1084, 1094, 1168, 1177, 1180, 1191. — 原論の編成 428. — 経済學出立點 312. — 世界經濟の説明 1048.
 ラスキン (Ruskin) 154, 170, 873.

S

サン・シモン (Saint-Simon) 127.
 阪西由藏 252, 498, 547, 800.
 澤田吾一 1005.
 ザツクス (Sax) 354, 507, 508.
 セー (Say) 127, 285, 528, 531, 724, 735.
 シェフレ (Schäffle) 160, 782, 870, 967, 975, 976, 1046, 1057, 1181. — 經濟學の出立點 312.
 シェール (Scheel) 1201.
 シェラー (Scherer) 1175.
 シュモラー (Schmoller) 17, 22, 29, 52, 56-7, 63, 100, 130, 159, 186, 193, 195, 202, 209, 211, 213, 221, 258, 290, 354, 422, 429, 432, 434, 580, 617, 619, 663, 704, 709, 713, 759,

798, 910, 964, 974, 990, 1006, 1011, 1014, 1021, 1071, 1078, 1086, 1091, 1095, 1097, 1116, 1145, 1169, 1175, 1177, 1181. — 經濟學の出立點 312. — 原論の編成 428. — の經濟階段説 59. — の研究法 131. — の經濟學研究の準備過程 243. — 經濟組織發展の階段 1114. — の經濟的の説明 876. — の國民經濟の三要點 532. — の國民經濟の定義 1029. — の領域經濟 66. — とメンガーの論争 228. — の欲望の分類 440.

シエンベルヒ (Schönberg) 287, 354, 968, 970.
 シュロエダー (Schröder) 1159, 1163, 1165.

シュルテ (Schulte) 1159.

シュムペーター (Schumpeter) 132, 143, 319, 710, 727, 729, 740, 744, 746, 757, 786, 792. — 經濟學の主題 730. — の經濟生活に就て 746.

シーガー (Seager) 266, 269. 關 — 799, 816-7, 1166, 1212.
 セリグマン (Seligman) 266, 267, 400, 532, 553, 555, 558, 564, 585, 618, 620, 640, 685, 697. — の需要彈力性 482. — の土地不可變力 554.

シーニョア (Senior) 379, 431, 507, 530.

シムメル (Simmel) 932, 939, 957, 1109, 1117, 1120, 1182.

スマイルス (Smiles) 73.

スミス (Smith, Adam) 22, 30, 102, 104, 114, 122, 201, 211, 334, 338, 526, 688, 702, 714, 721, 740, 743, 820, 825, 826, 837, 843, 846, 848, 872, 914, 982, 996, 1201, 1226. — 分業の三大利益 692, 1330. — の分業論 690. — の原始の社會 835. — の價値の語 336. — の價値の原則 834. — の經濟學研究法 115. — の國富論の版本 277. — のメルカントリズム攻撃 107. — の最大事業 116. — の社會の三收入 530. — の資本の定義 398.

ソムバート (Sombart) 103, 132, 547, 747, 753, 759, 766, 798, 801-2, 814, 971, 974, 977, 1104, 1126, 1196, 1236. — の經濟區分表 1237. — の經濟階段説 60. — の經濟主義 1235.

シュバーン (Spann) 132, 142.

スペンサー (Spencer) 33, 147, 1095, 1126, 1182.

スピートホフ (Spiethoff) 418.

スピノ (Supino) 274-5, 360. — の財 342. — の財の定義 341.

左右田喜一郎 177, 188, 198, 317, 441, 493, 769, 1201.

添田壽一 1351.

ゾーム (Sohm) 1135, 1159, 1169.

シュタムラー (Stammler) 1036.

シュタイン (Stein) 284. — の財論 370.

シュタインハウゼン (Steinhausen) 1166.

シュトリエダー (Strieder, Jacob) 104.

スタチュアート (Stuart) 114, 526, 846.

スタツプ (Stubb) 1153.

菅沼貞風 1074.

崇神天皇 1233.

素戔鳴尊 1231.

T

タキトゥス (Tacitus) 1080.

田口卯吉 291-2, 1126.

田島錦治 292.

高橋誠一郎 144.

竹内謙二 278.

瀧本美夫 315. — 經濟財と自由財 350.

タルド (Tarde) 875. — の交換に就て 1119.

タウシツク (Taussig) 268, 417, 733.

手塚壽郎 283, 461.

トマス・ダキノ (Thomas d'Aquino) 506.

タムソン (Thompson) 774.

チューネン (Thünen) 560, 566. 徳川氏 1235. — 時代 1195. — の經濟政策 1192.

トック (Tooke) 121.

トレンス (Torrens) 394, 531.

豊臣氏 1285.

トルユシー (Truchy) 271, 273.

津村秀松 217, 293, 352, 655, 685, 750, 1361.

トインビー (Toynbee) 93.

U

内田銀藏 286, 1209.
上田貞次郎 766, 1201.
アンウィン (Unwin) 96.

W

ワグナー (Wagner) 25, 29, 228, 259, 318, 354, 429, 652, 870, 872, 881, 883, 888, 896, 926, 956, 980, 981, 991, 1000, 1022-4, 1033, 1057, 1191. — の研究法 103. — の経済學の 出立點 312. — の經濟の本則 958. — の經濟の定義 957. — 經濟生活組織の原則 1045. — の國民經濟の定義 1030. — の共同經濟の思想 1017. — の世界經濟の定義 1049. — の財産に就て 987.
ヴァイツ (Waiz) 1159.
ウェークフィールド (Wakefield) 693.
ワラス (Walras) 132, 282, 460.
ウェブ (Webb) 31.
ウェーバー (Weber, Max) 72, 132, 188, 219, 1145.
ウェスコット (Wescott) 71, 101.
ウェスト (West) 607, 609.
ウェーレルス (Weulersse) 140.
ウィックスセル (Wicksell) 274, 276.
ヴィーゼ (Wies) 548.
ヴィーザー (Wieser) 132, 354.
ウィッテ (Witte) 274, 276.

ヴォルフ (Wolf) 319. — の欲求に就て 316.
ヴォツェル (Wotzel) 954.
ライト (Wright, Carrol D.) 81, 101.
ヴント (Wundt) 23.

Y

山崎覺次郎 292.
横井時冬 1126, 1155, 1165, 1180.
横山由清 659.
米田庄太郎 766, 780.
ヤング (Young) 114, 118, 122, 595.

Z

ツェンカー (Zenker) 1126.
ツィンメルマン (Zimmermann) 1188.

索引 (其二)

二 件 名 索 引 二

A

悪貨の取締 1356.
天高市 1154.
亞米利加發見 65, 1188.
アーチャー (Archer) 69.
アルテル (Artjel, Artell) 1139.
あたへ 338, 931, 909. — に高
低ある場合の伸縮の圖 476. —
の變動 468, 484. — され
だん 926, 932. 住居の —
479.

B

賣買 938, 1342. — の表解 1381.
— の起因 918. — の例圖解
512.
部 1125.
貧乏 3, 122-4. — の原因 4.
母系的民族 1084.
母權 — 説 1084. — と母系に關
する批評 1086.
牧畜民 1089. — 時代 1062, 1098.
部分請賃制度 78.
物價 337. — 指數 1369. — 相
關の傾向 1401. — と市價 923.
分配 725. — の語 526. — の定
義 1403. — と交換 725.
分業 911, 914, 1096, 1225, 1327.
— の發達 74. — の弊害
1331. — の問題 638. — の利
益 1230. — の三大利益 692.

— の特色 74. — と機械の影
響 694. — と進化との關係
778. 男女間の — 1280. 主
從的 — 1300. 作業 — 1328.
生産 — 1328. 職業 — 1327.
分化と進化 780.
文明の海岸に發生する一原因
1073.
物々交換 1281, 1344. — の眞
相 1382. — の圖解 511.
物質的 — 報酬 161. — 史觀論
1034.

C

地域團體 1138.
力 (自己及他人の) 1262.
蓄積 — の淵源 675. — の原理
737. — の原則の作用 734. —
の富 682.
賃 — 機 79. — 仕事 1177, 1222.
賃銀 841, 996. — の法則 122.
— の騰貴 742.
賃子 407, 990, 996. 準 — 407.
賃貸 — 價格 1385. — 料 1414.
— 財産 1385.
貯蓄 678. — に関する誤解 1334.
— の動機 739. — の原理
494. — 心の大小 1423. — と
消費 1423. — と資本との關
係 1334.
重農主義 112.
朝鮮 (韓國) — の土地私有權

1126. —との関係 1284. —の部邑 1173.
 長子相続制度 68.
 鱗貸—高權 1348. —の發生 1346. —の材料 1347. —と國權との關係 1347.
 中間經濟 1233.
 中經濟 1312.
 註文生産 1204.
 鑄錢の輸入 1235.
 チュートン(Teuton)人 1092. —民族 46, 48.

D

大家族 1003, 1092.
 大經營 1312.
 代替 —部分 695. —信用 1378. —的對價 1377.
 兌換—準備制度 1362. —制度の一變態 1364. —紙幣 1359.
 團體 —企業 1310. —欲望 1013.
 出來高給 1416, 1417.
 田結 1126.
 同調連業 1329.
 獨逸 23, 90, 1187. —學問の—弱點 176. —學者 57, 128. —の經濟階段說 58. —學者通有の弊 132. —派の學者 13. —の人口 663. —の都市 1161, 1169, 1171. —の—都市の總面積平均 1172-3.
 獨占價格 1398.
 奴隸 1142. —の起源 1125. —制度 42, 1279. —制度存續主張の理由 1135.
 動力 735.

動産 1175. —の發達 1301.
 動態の研究 712.
 道德律 249.
 ドルチナ (Druzina) 1139.

E

エコノモス (οικονομος) 1011.
 江戸幕府 1285. —時代 1187, 1207.
 營業資本 402.
 營利 749, 768. —以外の衝動 169. —經濟主義 1235. —行爲 169, 942. —行爲の自己生産と異なる點 942. —の衝動 746, 759, 764, 768. —の衝動の論 760. —心 759. —財產 990.
 演繹學派 200. —の謬因 253. —と歸納學派の別 239.
 緣日 1155.

F

ファクトリ (Factory) 1313.
 ファミリア (Familia) 1011.
 ファムリ (Famuli) 1125.
 普遍—の眞理 233. —的方法 195.
 不變資本 414, 859.
 不換紙幣 1359. —ミグレンシアム法則との關係 1356. 名實共に—國 1366.
 富國強兵 1037.
 布告主義 1369.
 佛蘭西 743. —經濟學上の貢獻者 127. —人口増加不振の原因 743. —の都市 1171.
 不融通資本 416.

フランクプレッジ・タithing (Frank Pledge Tithing) 1141-2.

G

外界の財 323, 879.
 外國貿易—問題 119, 121. —と國內交換 1332.
 學派 202.
 學問—上の類推考察 732. —の本質二條件 191. —の研究 204, 255. —の研究法と法則 191. —の根本的條件 194. —の進歩 246. —の職分 213. —の要 243.
 限界—分 1392. —需要價 457. —購入分 447. —收穫 598. —對偶 1401. —定量分 598. —餘剩收益均等の法則 1401.
 限界利用 447, 1392. —の比較選擇 505. —の問題 486. —と全利用 1394.
 限界利用均等 494. —の法則 489, 499. —の法則に關する參考書 508.
 現行市町村制 1141.
 原始—人類使用の器具 1069. —人類と獸類の差違 1069. —民族の主權者 35. —の社會 39.
 原子主義說 1057.
 現在の使用と將來の使用 496, 499.
 技術 1291. —上の生産 1291. —上の有限不足 1257. —の發達 180. —と經濟 1257. —と經濟の差 907.

銀行 1373. —信用 1370. —券 1360. —券發行制限 1361. —券の定義 1360.
 希臘—民族 41-2. —の文明 42. —の學者 148. —の發達史 53. —の經濟組織 1228. —の滅亡 43.
 合同企業 1311.
 五保 1139.
 五人組制度 1139.
 グresham (Gresham) 法則—の實例 1355. —の定義 1355. —と複本位制度 1355.
 ギルド (Guild) の制度 84.
 漁獵民 —時代の男女 1084.
 高度の— 1071. 高度の—時代 1068. 高度の—の住地 1072. 高度の—間の分業 1074. 高度の—と低度の— 1071-2. 低度の— 1066. 低度の—時代 1098. 低度の—に屬する人種 1067.

H

發見 789.
 發券—額の制限 1362. —銀行複合制及單一制 1362. —制度 1361. 最高—額限定制度 1362.
 班田—法 54. —の制 1284.
 發明 789.
 發展律 250. 史的— 250.
 平均—利潤率の謎 862. —指數 1368.
 非自由財 328.
 跛行本位制度 1354.
 貧富の意義 1406.

別 919. — の定義 337, 715. — の運用論 719. — を定むる原因 721. — 論 718. — 社會 1263. — 社會の組織 1264. 客觀的 — 925. — と — との較差 776. — と利用 1262. — は價格の一事情のみ 1387. 價值回收行程 810. — と價值増進行程 812. 價值増進行程 809, 821. — に於ける餘剩價值 815. — と勞働行程の比較 812. 家長 1125, 1133. — 制度 1092. 貨幣 491. 626, 670, 672, 922, 935, 1107, 1220, 1223, 1265. — 類の稱量 162. — 價格 925, 931. — 價格と市價 930. — 問題 119. — の限界利用 453. — の起原及變遷 1344. — の定義 1341. — 特有の欲望 936. — の輸入 1199. — 資本 417. — 商量 1265. — 數量説 1375. — 適合 1265. — と生産 1108. — 餘剩價值 777. — 材料の備ふる性質 1343. 古い — 935. 原始の — 材料 1345, 補助 — 1353, 法律上の — 1349. 輕量 — 1357. 無効 — 1357. 商品 — 1345. 對外 — 1344. 對内 — 1344. 稍々進歩せる — 1345. 貨幣價值 1265. — の標準 158. — の評量 394. — の人為的強制 1370. — の公式 1373. — の説明 1374. 貨幣經濟 767, 947, 1108, 1265. — 時代 936. — の本質論

767. — の確立 1199. 貨幣利用 1333. — 遞減の作用 453. — と支拂能力 1399. 可變資本 414, 859. 快感遞減の法則 446. 階級的同情と家庭的愛情 172. 會社 — 企業 1307. — 企業と個人企業の比較 1308. — の種類 1307. — の財政 975. 法律上の — と經濟上の — 1307-8. 鍛冶術の進歩 1345. 價格 337, 726, 921, 925, 1336, 1400. — 系體 1402. — の變動 478. — の最高限 1394. — の最低限 1395. — の定義 1384. — 相互の比較 1387. — 推移の理法 1402. — と利用の圖解 445. — と所得の調和 1419. — と所得の差異 1407. — と貨幣價值との差異 1385. — と貨幣 — 926. 競争 — 1398. 物の — 1402. 價格決定 — の幅 1400. — の最終原則 1401. — の諸事情 1388. 家門 1123. 家内 — 工業 78, 1203. — 仕事の時代 1222. 關係 359, 891. 人々及商業上の — 349. カルテル (Kartell) 1311. 貨殖行為 942, 947. 家風經濟 1011. 家族經濟 1019, 1270, 1286. — の主體 1272. 經營 799, 816, 972. — の分立

1304. — の意義 800. — の形態 798. — の歴史上の順序 1313. — の性質上の四形態 1313. 經驗律 250. 景氣の循環 1420. 計慮 1254. — の標的 1259. — の單位 1264. 契約所得 996. — の種類 1408. 引渡 — 1407. 貸借 — 1409. 經濟 2, 959, 961, 984, 1253. — パロメーター 1422. — 動學 57. — 概念の説明に關する諸説 868. — 現象の内容的統一 162. — 法則 198. — の論理的性質 191. — 表 112. — 純理の研究 134. — 階級 1000. — なる語の起り 1011. — 二様の意義 174. — 理論 721. — 理論の主題 724. — 制度 1234. — 靜學 57. — 政策 219, 1192, 1424. — 政策の研究 214. — 史 219, 241. — 史の書 134-6. — 書(日本の) 292-3. — 主義 1235. — 主體 175, 971, 1278. — と — 行為 960. — と — 行為の嚴別 966. 外部の — 695. 内部の — 695. — の本則 152, 178, 180, 624, 944, 945, 958, 1042. — の本則と人口増殖 1041. — の觀念に不可欠要件 959. — の根本原則 944. — の區分表 1237. — の目的 1265. — 上の目的と手段に關する議論 139. — の最基本的概念 1266. — の三種類 1012. — の主要

任務 983. — の出立點の論争 315. — の定義 957, 967, 1050. 經濟學 1, 6, 24, 149, 150, 156, 161, 164, 185, 254, 296, 421, 427, 729, 869. — 不進歩の原因 7. — 上の法則 243-54, 623. — 上の生産 1293. — に於ける人口論 628. — 理の發達 105. — 理論 709. — 三分法の創設者 528. — 説 254. — 説明表 304. — 者 213. — 者の最終目的地 701. — 四分法 529. — 緒論の参考書 313-9. — の分類 218, 1287. — の直接淵源 107. — の長所 162. — の學派 17, 1287. — の議論の精確なる所以 151. — の範圍 149, 158. — の本質 724. — の法則 248. — の本體 181. — の本體の特色 162. — の叙述法表示 423. — の科學的研究法 714. — の基礎 438. — の組立法 295. — の供給論 666. — の名稱 216-8. — の目的 222. — の歴史的研究 1286. — の倫理的研究 1287. — の最中心問題 182. — の性質 26. — の説明 954. — の社會的研究 1287. — の資本論 669. — の自然科學化 192. — の主題 721, 730. — の出立點 156. — の出立點に就て諸學者の説 312-3. — の主要問題 723. — の定義 18-9, 299, 1286. — の特色 163. — の取扱ふ題目 296. — 科

學としての——樹立 113, 科學としての——の要求 173.
 經濟學研究 55. —法 130-1, 186, 200. —法に關する參考書 226-9. —法の論争 210. —法の三形式 296. —の範圍 6, 157. —の問題 150. —の二大潮流 203. —の論争 244. —者 256. —者に必要の辭書 284-6. —者に必要の叢書 286-8. —者に必要の雜誌 289-91. —の最後の問題 726.
 經濟發展 740, 751. —階段 781. —階段論 783. —の理の講究者 789. —の主動力 735.
 經濟上——の現象 206, 467. —の法則 247, 249-50. —法則の定義 251, 253. —の自由の發達 1278. —の價值 909. —の利己主義 1042. —の最重要問題 1406. —の生産 1292. —の主題 711. —の富 155. —の欲望 151, 156, 163. —の財 155, 171, 700. —の善 171.
 經濟階段 1232. —の設定 784. —説 58-65.
 經濟行爲 150, 155, 163, 171, 180, 377, 391, 626, 906, 1253. —本位論 295. —本位論の圖解 300-2. —の概念に關する諸説 867. —の原則 1210. —の研究 158. —と營利行爲 945. —と合理行爲 168.
 經濟生活 220, 707, 735, 746. —の動機 161. —の發展 156.

——の基礎 615, 621. —組織の原則 1045. 無限の——750.
 經濟組織 55, 75, 771, 1002, 1253. —に主權なし 1267. —の起源 105. —の發展 1231. —の發展階段 1114. —發展に關する組織 1242-51. —發展の三時期 1115, 1218. —發展の三階段 1099. —發展の諸説 1256. —の根本事實 903. —の種々 1267. —論の根本概念 159.
 經濟的 178, 180, 185, 624, 1259. —てふ概念 176. —秤量の研究 167. —なる語の説明 877. —社會組織 175. —進歩 795. —進歩の行程 795. —進歩の起る三要素 791
 經濟單位 971, 1003, 1278. —なる成語 972. —と經濟組織 1220.
 經濟財 323, 332, 353, 368. —と自由財の表解 330.
 結婚數減少の原因 651.
 兼業 1329. —の利益 1331.
 權利 323, 344, 891. —と財 345-6.
 血族團體 1138.
 規範的——現象 252. —行爲 253.
 記實と演理 204.
 機械——の發明 80. —の生産 79.
 氣候——の影響 32-7. —と文明 36. —と經濟生活との關係 33-7, 51. —と人間の活動 36.

金——拂下價格變更 1365. —儲蓄し及國外輸出の禁 1364.
 勤儉貯蓄論 504.
 均衡の狀態 732.
 金納小作制度 70.
 歸納學派 200.
 勤勞 392, 891, 894, 1262. —契約所得 1409-10.
 金錢貸借と利子 1202.
 金屬 1345. —の價值と貨幣の價值 1369. —主義 1367. —主義と名目主義の合致の場合 1368.
 督基教 4, 46, 49. —會の影響 49.
 企業 534, 667, 699, 708, 759, 799, 816, 972, 1203, 1226. —勃興期 792. —が供給の動源となるに就ての參考書 547. —が流通生活發展の動力たる所以 785. —經濟 972. —なき時代 1300. —なる語 819. —の五形態 1306. —の發達史 89. —の本質 700, 784, 796, 815. —の意義 800. —の起源 1303. —の任務 1304. —の成立 1302. —の定義 1303. —利潤 407. —利得 996. —論 698, 798. —論研究勃興の所以 696. —制度の發生 77. —制度の發達 48. —一心 759. —と家計 1221. —と經營の對立 818. —と經濟 976. —と國家經濟 1270. —と資本 1299. —と資本の差異 1299. 會社——1307. 近世の——1234.

企業者 75, 85. —の三資格 1305. —の專制 86. —專制の弊 87.
 戸 1003.
 購買力平價説 1371.
 行動の衝動 155, 170, 434-5, 441.
 工業 1226. 家内——78, 1203. 個人——1306.
 個人——本位説 21. —の意義 1269. —企業 1306. —の權利 7. —の富 331. —的所 有權 38, 45. —的食料探求時代 962.
 個人主義 173. —學派 1287. —説 1055, 1057.
 工場 79. —の經濟 975. —制 1223. —制工業の發生 1203.
 顧客生産 943. —の時代 1116.
 交換 911, 954, 1119. —現象の形式 297. —の起源 1231. —の成立 916. —の要具 1342. —論 725. —と分配 391, 1337. —と分業 911, 1027. —と主觀的評量 1333. —財 298, 911.
 交換價值 915. —の誤説 1387. 客觀的——925, 926.
 公經濟的歲入 999.
 貢獻 1233.
 國家——自足經濟 67, 1285. —自足經濟主義 1193. —自足主義 1199. —主義 129. —と都市の軋轢 47.
 國家經濟 66, 1189. —の主體及機關 1271. —主義 1193. —と國民經濟 1190.

國富充實——の第一要件 108.—
—の道 88.
國民の社會的性質の根本要件
1033.
國民經濟865, 867, 1027-8, 1033,
1216, 1236, —發達の間接・直
接の條件 1276. —發達の條
件表示 1276. —の完成 1187.
—活動の條件 1275. —形
式の最根本的概念 867. —の
發生 64, 1183. —の根本概
念に關する關係書目 1239-42.
—の二個の學說 1055. —
の最大問題 1407. —の三要
素532. —の定義 1021, 1029,
1275. —の特徴 1217. —の
要素 617, 619. —政策の職分
1041-1. —政策の最高の職分
1033. —存在の理由 1046-7.
—職分 1039. —と國家經濟
との差別 1273.
國民經濟成立——の直接の發達
條件 1279. —の條件 1274. —
—の自然的條件 1274. —の社
會的條件 1274. —の前提條件
65.
國際法 1052.
國債利子の支拂 85.
黒死病の影響 70.
穀莖耕作 1078, 1079.
國定主義 1367.
孤立經濟 1104, 1233. —時代の
經濟形態 1234.
功利主義 173.
公差 1356.
耕作 1317. —法の改良進步696.
—法の良否 604. —法の變

遷さ豊度 603. —改良の進程
612. —の限界 590.
厚生——の努力 1258. —の努力
の對象 1259. —經濟 426.
公定物價表 1178.
固定資本 408, 1335. —の定義
409.
交通 1227, 1338. —經濟 1206.
共同——主義 8, 80. —所有制
度 39. —生活 1255. —的欲
望 1013.
共同經濟 175, 1013, 1269. —の
思想 1017.
協業 1328. —の利益 1331. 結合
—1328. 集合—1329,
恐慌 1420. —の原因 1420. —
と其種類 1419. 流通—1420.
生産—1420.
供給—價格 541. —の勸源
546. —の本質に就ての謬因
667. —論 546. —總論の缺
點 543. —誘致の原因 545.
—増加の場合の伸縮圖 472.
享樂 483. —財産 990.
共產制經濟 1019.
強制——公債 1359. —耕作 54.
—所得の種類 1410. —所得
と價格の法則 1411.
競争 27. —の意義 8.
協約所得 1415.

I

倫敦の株式取引所 69.
ルネサンス (Renaissance.) 50,
107.

III

前貸制度 78.
マンチエスタ-學派 (Manches-
ter-school) 1211.
マンニア (Manor) 1145.
マルク制度 (Mark system) 54.
マニユファクチュア (Manu-
facture) 1314. —の制 86.
明治維新 1286.
メルカンチリズム (Mercantili-
sm) 110. —の功過 111. —
の真相 108.
メルカントル・システム (Mer-
cantile system) 67, 1192. —
—の源 1193. —の植民政策
1194. —の目的 1194. —の
邦譯語 1193. —の執りし手段
1198.
民學塾 627.
民事經濟 1190.
民族主義 1213. —の經濟政策
1213.
モバ (Moba) 1139.
模倣 963.
目的——行爲 163. —律 250.
—と手段 171, 1255.
物——の現在の使用と將來の使
用 677. —の價值公式 855.
—の使用法 486. —と力
1256.
無形財 177.
無機物 1317.
無差別の法則 1263.
無政府主義の鼻祖 643.
無手数料引換 1357.
名目主義 1367.

N

内外の財 323, 348, 370, 390.
ねだん (値段) 923, 925. —と
相場 930.
熱帯地方 54.
ねうち 338, 909, 910.
日常生活の必需品 1144.
日露役 1286.
日本 48. —の兌換制度 1363,
1365. —の人口數一覽表 (江
戸時代) 665. —の人口増加の
大要 659. —の貨幣制度 1349.
—の經濟發達の大勢 1283.
—の製糸業 80. —の都市
1173. —全國戶口數一覽表
660-2. —と米國との關係
1372. —の經濟書 292-3.
日本銀行 1362. —兌換券 1361.
人間 11, 711. —に及ぼす天然
の影響 33. —の合理的行爲
181. —の意志及働の有無
1291. —の經濟上の活動 154.
—の共同 1218. —の行爲
464. —行爲の動機 172. —行
爲の根本原則 463. —最初の
時代 1067. —の性格 1. —
性格變化の原因 126. —性格
に及ぼす作用 2. —社會の發
展 751. —の欲望 430. 有の
儘の— 169.
認識の衝動 170, 432.
日清役 1286.
農業 69, 1077, 1082.
農民——解放 70. 高度の—
1096. 高度の—時代 1099. 高
度の—と低度の—1096. 低
度の—1075, 1076, 1082. 低
度の—時代 1098.

ノモス (νομος) 1011.

O

カイコス (οικος) 1011. 1125.
織元 78.
歐洲—諸國の主要問題 224-6.
—大戦 1368.
埤地利學派 201.

P

フキジオクラシー (Physiocracy) 112.—の學說 112, 114.
—學者の所論 113.—よりの感化 113.

R

歴史—上の出來事の直接原因 32.—律 250.—的研究法の發端 121.—哲學 241.—は繰返す 208.
歴史學派 55, 130, 207, 210, 212, 1237.—の法則に就ての見解 248.
連業 1329.
レントビリター (Rentability) 1411.
利潤 406, 841, 844, 996.—分配制度 1416.—と平均 850.—の本質 1418.—の法則 122.—と勞銀の關係 1419.
利潤率 407, 859.—の公式 860.—と餘剩價值率 861. 平均—の謎 861.
倫理—學 874.—學派 1287.—上の善 155.
利率と貯蓄との關係 679.

理論經濟學 214.
利子 (息) 406, 415, 996, 1414.—制限法 1414.
利用 450, 1260.—不易の法則 1393.—價格 830.—の大小 1260.—の大小 1389.—の得喪 1261.—遞増の法則 1392.—と費用 1292.
利用遞減の法則 446, 590, 1390.—例證 451, 456.—圖解 454.-5.
勞賃 996,
勞働 122, 534, 538, 807, 908, 963, 1221, 1262.—賃銀 82, 84, 86.—條件の三要點 1326.—給付 891, 895.—供給の増加 688.—保護政策 1217.—の分解 1225.—の分量 718.—の分量と勞銀の額 716.—の概念 379, 386.—の限界非利用 539.—の品質的増進 1325.—の給付 392.—の性質上の増減 524.—の種類 1321.—の數量上の増減 524.—の定義 383, 1319, 1321.—の要件 379.—力の使用 806.—心刺戟の四要點 1325.—即價值說 715.—と遊戯 384.—は力作 393.—全收權 836. 廣義の— 1321, 狹義の— 1321. 費されたる— 720.
勞働行程 821.—に於ける餘剩價值 815.—の本領 820.—の問題 808.—と價值行程 1300.
勞働効程—の問題 684.—増

進の問題 687.—増進 695.—増進論を分業論と看做す所以 690.—と分業に關する參考書 697.
勞働者—の數 1324.—保護政策 88.—生産力の充實 88.
勞働組織—の分類表 1330.—の種類 1327.—と資本との關係 1332.
勞銀 996.—の本質 1415.—の形態 1416.—の特性 1416.
羅馬—法 45.—法王 49.—人 43.—民族 41.—の文明 44.—の發達史 53.—の經濟狀態 44.—の經濟組織 1228.
掠奪耕作 1078.
領土の發達 1277.
領域—經濟 1187.—國家 66.
旅商隊 1092.
流通 713, 752, 1385.—原理の説明 1381.—經濟 1206.—恐慌 1420.—の起り 1142.—の理論 709.—論の中心問題 726.—資本 408, 1335.—の定義 409.—と生産との關係 1338.
流通生活 749, 750, 765, 768.—の動力 759, 765.—の意義 734.—の意義經濟發展の真相 748.

S

作業分業 1328.
鎖封經濟 1104.
最大—利用の法則 179.—餘剩法則の定義 184.

再生産費 1395.—の法則 1395.
最小—費用の法則 179.—費用・最大効果併行の法則 179.—一律 601.—と要件の法則 1319.
鎖國主義 1285.
三圃農法 54.
産物 368.
産業—自由の發達 48.—生活の行動 170.—生活の特色 8.
産兒制限 647.
サラセン民族 46.
制限外發行 1363.
政治—上の權力發生 1094.—經濟 709.—的經濟 1273.
正貨—比例準備制度 1362.—準備 1362.
精密科學 245.
聲聞の慾 431.
生産 377, 749, 910, 1289.—分業 1328.—費遞増 587.—經濟と消費經濟 1221.—効程 1325.—恐慌 1420.—に關する參考書 548.—の分類表 1297.—の概念 391.—の概念と消費の概念 387.—の語 526.—の形態の五階段 1058.—の根本的要素の表 1298.—の定義 1291.—論 524.—力の發達 1134.—三圃の定義 533.—三要素の圖解 610.—者と消費者 12.—餘剩 513.—單位と消費單位 1270.—と消費 388, 391, 1219.—と消費の不調和 1421.—と消費との分界表示 389.—財產 990.—財產と營利

財産の區別 991 長期最低—
 費の法則 1396. 技術上の—
 1291. 廣義の—1297. 狹義の—
 1296. 大量—1205. 定時
 最高—費 1396.
 生産的—なる意義 330.—勞
 働 382.—消費 387, 389.—
 的職業 1297.
 生産要素 549.—の概念 530.—
 —の語の沿革に関する参考書
 547.—としての土地に關す
 る参考書 565-6.
 正統學派 17.—學者の學說 120.
 —のメルカントル・システム
 攻撃 1200.—の認論の原四
 211, 235, 1029.—の經濟學上
 の三大問題 614.—と新歴史
 學派の根本差異 18.
 世界經濟 1048, 1207.—に到る
 三時期 1207.—の發生 1212.
 —の觀念 1052.—の説明
 1048.—の定義 1049.
 世界政策 1214.
 專業分業 1328.
 專制主義の時期 1027.
 專制的—國民經濟時代 67.—
 の警察國家 1207.
 占有 900, 903.
 節制 608.—學說 679.
 社會 10.—本位說 22.—上の
 法則の定義 251.—上の有限
 不足 1258.—科學 190.—
 價格 829, 830.—經濟 1206,
 1233, 1273.—經濟制度 1234.
 —の收入の三種 530.—問
 題 797, 1000.—問題の意義
 1419.—政策 1217, 1424.—

—政策時代 1215.—單位
 175. 原始の—39, 835. 健全
 なる—上の進歩 89.
 社會學 147.—の三泰斗 160.
 社會主義 172, 1000.—經濟時
 代の經濟形態 1235.—の學說
 124.—の所說 1421.—說
 1058. 學理的—の先驅 127.
 社會的 1000.—秩序と組織
 1028.—時代 1215.—計慮
 1263.—國民經濟 67.—の
 考慮 173.
 借地借家臨時處理法 1415.
 奢侈 1423.
 死亡數 1323.
 支拂 1342.—要具 1108.
 紙幣—の納稅準備 1359.—
 の種類 1353.—の定義 1353.
 —と銀行券の異同 1361. 不
 換—1359.
 資本 398, 411, 534, 673, 990,
 1223.—化 1175, 1423.—價
 格 1385.—に關する参考書
 681-2.—の分類 403.—の
 蓄積 504, 740, 840.—の概念
 396, 672.—の本質に關する
 論争 397.—の本質の問題
 395.—の形式と充用の不調
 和及原因 1421.—の種類 408,
 1336.—の種類と企業形態と
 の關係 1335.—の定義 401,
 672, 1332.—の増殖 670,
 682, 738.—の増殖作用 737.—
 の増減 668.—の増減作用 735.
 —論の要旨 68', —性の
 附與 1333.—制經濟時代の
 經濟形態 1234.—制生産組

織の發生 1201.—的農業の
 發達 1302.—的勞働の發達
 1301.—的精神 759.—と企
 業 1234.—と—財 413.—
 —増殖論の骨子 674. 營業—
 402. 不變—414, 859. 非—
 1333. 補助—408. 貨幣—
 417. 可變—414, 859. 固定—
 —408, 1335. 流通—408,
 1335. 消費—408. 商品—47.
 要具—408. 融通—416.
 市場 1263.—計慮 1264.—事
 情より享くる消費者利益 518.
 —需要 518.—の種類 1340.
 —の定義 1339.—生産
 943, 1203.—生産時代 1117.
 支那—貿易 1285.—文明の輸
 入 1284.
 進化—發展の思想 781.—論
 の發見 189.
 新教 72.—徒 72, 73.
 新歴史派 17.
 心理狀態の比較 165.
 心身の力作 384.
 信用 938, 1111, 1204, 1227.—
 經濟 1110, 1111, 1380.—經
 濟時代 1111.—券 1378.—
 の發生 1202.—の利害 1374,
 1380, 1399.—の種類 1378.
 —と銀行 1380. 直接—
 1379. 引受—1379. 間接—
 1379. 對人—1339. 商品—
 1379.
 白川村(飛騨國)—の地勢
 1007.—の大家族 1008.—
 の風俗 1009.
 指數調査 1422.

史的發展律 250.
 使用—價值 820.—權 1124.
 自然—法則 198.—上の有限
 不足 1256.—狀態變化の二種
 類 1290.—價格 829, 830.
 自然科學 245.—の發達の原因
 148.—の進歩 188.
 自然經濟 1105.—時代 930,
 1101.—對貨幣經濟の差別論
 767.—と貨幣經濟 766.—
 と名づけし理由 1104.
 氏族 1003, 1123.—制度 1096.
 氏族經濟 1011, 1124, 1126, 1267.
 —崩壞の際の二現象 1125.
 —時代 1283.
 莊園 62, 1144, 1284.
 莊園經濟 1142, 1284.—と都市
 經濟の差異 1181. 自足的—
 1142.
 商業 374, 920, 1144, 1226, 1339.
 —上の不正直 12.—の發
 達を妨げられし原因 1178.—
 の定義 921.—取引 12. 古代
 の—783.
 消費 378, 387, 964.—論研究
 の三原因 425.—資本 408.—
 —貸借 1377.—的富 396.—
 —財 293, 396, 1219. 過少
 消費 1421.
 消費者—の需要 444.—と勞
 働者 1222.—餘剩 509.—
 餘剩の説明 776.
 商品 912, 920.—貨幣 1345.—
 —の變形 814.—の販賣價格
 の最低限 853.—の價格 853.
 —の覺性 821.—生産 1294.
 —資本 47.—信用 1379.

職業——分業 1327。——階級 1181。——の分岐 1096。——の分立 1181。——の分限 1296。——と營業 1205。
 植民——地 1199。——政策 1186。
 小經營 1312。
 證券資本主義 774。
 商人 1154, 1161。
 商量 1254。
 所得 182, 184, 398, 978。——獲得的 1261。——の大小 1406。——の大小を定むる原因 1407。——の第二淵源 1404。——の第二淵源に基く種類 1405。——の第一淵源 1404。——の第一淵源に基く種類 1405。——の觀念 20。——の種類 996, 1412。——の定義 1404。——を中心とする經濟生活の區別 1405。——と資本に關する參考書 417-9。——と財産 1224。——(1)の價格 1407。第二——997。傳來的——997。純——404。協約——1415。無勞——827。年分——577。財産——996。殘高——997。
 所要充當經濟 747。——と營利經濟 748。
 集中的耕作法 1080。
 收益 977。——獲得的 1261。——力 1333。純——977。
 集合協業 1329。單純なる——1329。
 集化と分化 1278。
 收穫遞減——の傾向 582, 597。——の傾向創說者 609。——に關する參考書 617。——の作用 679。

收穫遞減の法則 459, 581, 587, 593, 594, 606, 616, 623, 625。——の擴張 584-5。——の功過 613。——の理論 593。——の例證 1319。——の定義 596, 1319。
 收穫遞増の傾向 582。
 習慣 37-3。——の打破 38。——の惰力 154。——の影響 40, 52。——の勢力 169。
 手工業 1302。——組合制度 1178。
 宗教 2, 71。
 收入 978。
 收支の適合 1265。
 出生數 1322。——減少の原因 651。
 種族 1004。——經濟 1011, 1019。そうば(相場) 923。
 綜合經濟 175, 1013, 1269。主體なき——1273。
 粗放的耕作法 1073, 1081。
 村落經濟時代の經濟形態 1234。
 組織としての經濟 174。
 相對的の財 878。
 租稅 999。
 瑞典 1365。
 西班牙 50, 1187。——滅亡の原因 111。

T

對物信用 1227。
 對人信用 1228。
 對外——價值 1366, 1371。——價值と對内價值結局の一致 1373。——貨幣 1344。——購買力 1372。
 大化の改新の政 1136。
 對内——價值 1366。——貨幣

1344。——購買力 1367, 1372。
 貸借の殘高 1111。
 退職 1423。
 手末の貢 1132。
 單位 673。
 手形 1373。
 定期取引 1341。
 帝國主義 1214。
 適合 1254。
 手鋤耕作 1077。
 手間賃 1224。
 手先製作 79。
 手數料 999。
 哲學——の問題と經濟學の問題 165。——の進歩 236。
 統 1141。
 當物交換 1117。——時代 1101。——經濟と當人交換經濟 1103。
 土地 534, 563, 1122, 1175。——なる語の内容 549。——の分配に於ける特質 551。——の物理的成分 1317。——の物理的性質 569-70。——の地位 556。——の延長 555, 557。——の延長の所有 577。——の不變條件 573。——の不可壞力 554。——の技術上の三性質 1314。——の一大特質 555。——の化學的成分 1317。——の化學的性質 571。——の經濟上の二性質 1315。——の經濟論 622。——の氣候的事情 1315。——の氣候的關係 572, 575。——の氣候的性質 574。——の固有の力 552。——の固有性と資本性 1318。——の面積及地位 1315。——の二様の性質 562。——の產物と

工業品 1397。——の私有制度 340。——の他の生産要素との異點 557。——の特質 550, 552, 559, 561, 568。——自然増價課稅 1415。——相續 101。——と勞働 1299。——と勞働及資本との關係 1320。——と資本との異同 1533。
 土地の豐度 556, 569, 571, 601, 1316。——なる語の用法 603。——に關する參考書 580。——の二要素 569。——と氣候 576。
 等價關係の誤謬 1383, 1386。
 統一的國民 1273。
 統計的研究法の端 121。
 特殊經濟 175, 219, 1012, 1269。
 當人交換 1117。
 富 321, 397, 398。——本位論 395。——に關する參考書 353-4。——の蓄積 676。——の概念 395。——の語 319。——の語と財の語 320。——本位論表示 307。——本質論表示 307。——の充用 427。——の増加 185。人的——334。共同的——335。世界的——336。
 取引 1338。——の種類 1340。——の要具 1342。——所 1341。定期——1341。
 都市 1159。——の發生 1160。——に特有なる政治組織の起源 1166。——國家 1186。——共和國 1186。——の住民 1170。——住民の工業品 1177。——の住民と地方の住民 1159。——の工業者 1173。獨逸の——

1169, 1171. 英吉利の—1170.
 佛蘭西の—1171. 伊太利の—1171.
 都市經濟 64, 1148, 1286.—時代 63.—時代の特色 1148.—時代の經濟形態 1234.—なる稱呼 1151.—政策 1176-8. 中古の—1180.
 等族 1001.
 トレード・ユニオン (Trade Union) の制 87.
 トラスト (Trust) 1311.
 通貨 1347.
 通貨 1847.—の問題 120.
 通用最輕量目 1357.

U

宇宙主義 1211.
 兵士 1137.

V

ヴェラ (Villa) 1144.

Y

野蠻人種 33.
 焼畑 1078, 1079.
 大和族民 1094.—とチユートン民族 1094.
 用益 410.
 要具資本 408.
 餘剩—利用 182, 183, 184, 1261.—收穫 599.
 餘剩價值 775, 776, 825, 830, 856, 1304.—と利潤 850.—の思想 823.—率の公式 860.—率の利潤に變ずる所以 859.—論 853.—説 827.

—と購買力 520.
 欲望 151, 162, 445, 484, 624, 870, 873.—直接充足經濟主義 1235.—飽實の法則 446.—本位論 295, 317.—充足 177, 185, 503, 740, 750, 887.—充足の準備 1253.—行為. 充足の循環定式の分解 770.—無限の原則 445, 449.—無限の起因 626.—の分類 439, 440.—の研究 430.—の理論 438.—と文明 431.—と經濟行為に關する参考書 442-3.—増進と人類の幸福 877.—有限の法則 446.—有限の原則と無限の原則 450.—真正なる—882.

欲求 316.
 ヨーマン (Yeoman) 69.
 幼年労働者 86.
 養老年金制度 31.
 遊牧民 1062, 1089.—時代 1062, 1068.—時代に屬する人類 1090.—時代の男女 1090.
 有限—不足の三種 1256.—の經濟生活 750.—と無限 898.—責任會社 1309.
 弓野の調 1132.
 有形物—の生産 374.—非—財の二種 324.
 有機—物 1317.—體説 1057.
 優等人種 32.
 融通資本 416. 不—416.

Z

財 343, 372-4, 878, 879.—の

概念の必要なる所以 361.—の概念 368, 890.—の本源 905.—の表解 326, 333, 365.—の循環 1219.—の相對價值 719.—の定義 341, 355-6, 886.—の前提四條件 353.
 新たに生産し得る—と然らざる—1395. 外界の—323, 879. 譲渡し得ざる—325. 交換—293, 991. 内界の—323, 348, 879, 890. 準—891. 無形—177. 相對的の—878. 有形—321, 344. 絶對的の—878.
 在外正貨 1364.
 殘高—の原則 1413.—所得 997.—所得の特性 1411.
 財産 987, 1224.—の強制的共同 1278.—共有 1278.—の觀念 988.—の觀念の二様 989.—の種類 990.—の定義 340-1, 370.—私有制度の發達 1277.—所得 996.—税 990. 營利—990. 享樂—990.
 絶對の眞理 233.
 造幣特權 1348.

25. II. 25.

大野隆 稿

大正十五年三月十五日七版發行
 大正十四年四月十五日七版發行
 大正十四年三月十五日七版發行
 大正十四年二月十五日七版發行
 大正十四年一月十五日七版發行
 大正十三年十二月十五日七版發行
 大正十三年十一月十五日七版發行
 大正十三年十月十五日七版發行
 大正十三年九月十五日七版發行
 大正十三年八月十五日七版發行
 大正十三年七月十五日七版發行
 大正十三年六月十五日七版發行
 大正十三年五月十五日七版發行
 大正十三年四月十五日七版發行
 大正十三年三月十五日七版發行
 大正十三年二月十五日七版發行
 大正十三年一月十五日七版發行

大正十五年三月十五日七版發行



著者 福田 徳三
 發行者 株式會社 同文館
 右代表者 田中 六藏
 印刷者 東京 勇治
 印刷所 東京市小石川區久堅町一〇八番地
 共同印刷株式會社
 山縣 純次

經濟學全集
 第一集 經濟學講義
 定價金八圓貳拾五錢

發 兌

東京市神田區表神保町二番地
 電話 大手五九一九番
 振替口座東京一三五番

株式會社

同文館
 電話 神田九三三番

福田徳三 著述目録

(大正十四年二月十日調)

Faint, illegible text and markings on the right page, likely representing the table of contents or a list of works.

- (一) インスペレーションの説 (神學研究講義錄第一號所掲) 福田徳三譯
明治二十六年五月十一日 神學研究會發行
- (二) 高等商業教育論 (翻譯)
明治三十一年六月三日發行 東京高等商業學校出版
- (三) 勞働經濟論 (ルヨ・ン・レンタノと合著)
明治三十二年十二月二十九日發行 同文館發行
- (四) Die gesellschaftliche und wirtschaftliche Entwicklung in Japan. (Münchener
Volkswirtschaftliche Studien, herausgegeben von Lujo Brentano und
Walther Lotz. 41 Stück) Stuttgart 1900. J. G. Cotta'sche Buchhand-
lung Nachfolger G. m. b. H.
大倉書店發行
- (五) 最近商政經濟論 (關一と共著)
明治三十五年六月十日發行 哲學書院及大倉書店發行
- (六) 國民經濟原論
明治三十六年十二月二十日 (哲學書院發行)

明治四十三年一月八日(再版) 明治四十三年一月廿五日(再版)

(七) 日本經濟史論(阪西由藏譯) 寶文館發行

明治四十年四月十日 明治四十年六月十八日(訂正再版)

大正三年九月十八日(校訂三版)

(八) 經濟學研究(一冊) 同文館發行

明治四十年六月十日 明治四十年九月廿五日(再版)

明治四十一年三月十五日(增補三版) 明治四十一年十一月廿日(改訂增補四版)

(九) 經濟學講義(上卷) 大倉書店發行

明治四十年九月二十一日 明治四十年十月十日(再版)

明治四十年十一月一日(三版) 明治四十一年二月廿五日(四版)

明治四十二年十二月十日(五版)

(十) 經濟學講義(中卷) 大倉書店發行

明治四十二年六月十三日 明治四十二年六月廿七日(再版)

明治四十二年八月二十六日(三版)

(十一) 經濟學講義(下卷) 大倉書店發行

明治四十二年九月二十四日 明治四十二年九月三十日(再版)

(十二) 經濟學講義(全) 大倉書店發行

明治四十二年十月十二日 明治四十三年一月二十八日(再版)

明治四十三年六月十五日(增訂三版) 明治四十四年五月十二日(四版)

(十三) 經濟學教科書 大倉書店發行

明治四十四年十二月五日 明治四十五年一月二十日(再版)

大正二年五月三十日(四版)

(十四) 續經濟學講義(流通總論) 大倉書店發行

大正二年五月十六日 大正二年六月一日(再版)

(十五) 續經濟學研究 同文館發行

大正二年十一月二十日 同文館發行

(十六) 改定經濟學研究(改版乾坤二冊) 同文館發行

大正四年三月廿一日

福田德三 著述目錄

- 大正九年一月二十五日(續經濟學研究と合冊二冊)
- 大正十年三月十五日(再版)
- 大正十三年一月十五日(四版)
- 大正十三年三月七日(六版)
- 大正十三年七月十五日(八版)
- 大正十二年八月十五日(三版)
- 大正十三年二月二十五日(五版)
- 大正十三年五月二十五日(七版)

(七) 改定經濟學講義(第一卷)

大正四年十一月十日

大倉書店發行

大正四年十二月十四日(再版)

(八) 國民經濟講話(乾卷)

- 大正六年二月廿五日
- 大正六年四月一日(三版)
- 大正六年六月十五日(五版)
- 大正六年八月八日(七版)
- 大正七年三月十五日(九版)
- 大正七年六月十五日(十一版)
- 大正七年十月廿五日(十三版)
- 大正八年二月一日(十五版)
- 大正八年四月十日(十七版)
- 大正六年三月廿日(再版)
- 大正六年五月一日(四版)
- 大正六年八月三日(六版)
- 大正七年二月七日(八版)
- 大正七年五月卅日(十版)
- 大正七年十月一日(十二版)
- 大正八年一月十五日(十四版)
- 大正八年二月十五日(十六版)
- 大正八年五月廿日(十八版)

佐藤出版部發行

(九) 國民經濟講話(坤一) 勞働經濟講話

大正八年六月十五日(十九版)
大正八年九月三十日(二十一版)

大正八年九月十五日(二十版)

佐藤出版部發行

- 大正七年一月七日
- 大正七年二月十七日(三版)
- 大正七年三月十五日(五版)
- 大正七年四月五日(七版)
- 大正七年十月五日(九版)
- 大正八年二月一日(十一版)
- 大正八年五月五日(十三版)
- 大正八年八月廿五日(十五版)
- 大正八年八月二十日(十七版)
- 大正九年一月十三日(十九版)
- 大正七年二月十二日(再版)
- 大正七年三月五日(四版)
- 大正七年九月二十五日(六版)
- 大正七年九月二十日(八版)
- 大正八年一月十五日(十版)
- 大正八年二月十五日(十二版)
- 大正八年五月十五日(十四版)
- 大正八年八月十日(十六版)
- 大正九年一月二十日(十八版)
- 大正九年二月十日(二十版)

(十) 經濟學考證

大正七年二月二十八日
大正七年四月十五日(三版)

大正七年四月五日(再版)
大正八年六月五日(四版)

佐藤出版部發行

(三二) 黎明録

佐藤出版部及大鑑閣發行

- 大正八年七月一日
- 大正八年七月二十五日(三版)
- 大正八年八月十日(五版)
- 大正八年十月十日(七版)

- 大正八年七月十日(再版)
- 大正八年八月一日(四版)
- 大正八年八月十五日(六版)
- 大正八年十一月五日(八版)

(以上佐藤出版部發行)

- 大正九年四月一日(九版)
 - 大正九年七月二十日(十版)
 - 大正九年十二月五日(十一版)
 - 大正十年七月十五日(十二版)
 - 大正十年十二月二十日(十三版)
- 大鑑閣發行

(三三) 國民經濟講話 (坤二) 資本經濟講話

佐藤出版部發行

- 大正八年十一月十一日
- 大正八年十一月廿日(三版)
- 大正八年十一月廿八日(五版)
- 大正八年十二月五日(七版)
- 大正九年一月五日(九版)
- 大正九年一月廿五日(十一版)

- 大正八年十一月十五日(再版)
- 大正八年十一月廿五日(四版)
- 大正八年十一月廿日(五版)
- 大正八年十二月廿五日(八版)
- 大正九年一月十五日(十版)

廉刷版大鑑閣發行

(三四) 現代の商業及商人

大鑑閣發行

- 大正九年十一月一日
- 大正九年十二月十五日(五版)
- 大正十年一月十五日(七版)
- 大正十年二月十五日(九版)
- 大正十年九月廿五日(十一版)
- 大正十年十月卅日(十三版)

- 大正九年十一月卅日(四版)
- 大正九年十二月卅一日(六版)
- 大正十年一月卅日(八版)
- 大正十年九月十五日(十版)
- 大正十年十月十五日(十二版)

(三五) 晴雲錄

大鑑閣發行

- 大正九年十二月廿日
- 大正十年一月五日(三版)
- 大正十年一月廿五日(五版)

- 大正九年十二月廿五日(再版)
- 大正十年一月十五日(四版)
- 大正十年二月五日(六版)

(三六) 訂正 國民經濟講話

大鑑閣發行

- 大正十年二月十七日
- 大正十年二月廿三日(三版)
- 大正十年二月廿七日(五版)
- 大正十年三月五日(七版)
- 大正十年五月十日(九版)

- 大正十年二月二十日(再版)
- 大正十年二月廿五日(四版)
- 大正十年三月二日(六版)
- 大正十四年四月七日(八版)
- 大正十年六月廿五日(十版)

福田德三 著述目錄

- 大正十年九月廿日(十一版)
- 大正十年十月十五日(十二版)
- 大正十年十一月廿五日(十三版)
- 大正十年十二月廿五日(十四版)
- 大正十一年一月十五日(十五版)
- 大正十一年二月十日(十六版)
- 大正十一年三月五日(十七版)
- 大正十一年三月十五日(十八版)
- 大正十一年三月十五日(十九版)
- 大正十一年五月十日(二十版)
- 大正十一年五月十五日(二十一版)
- 大正十一年五月十五日(二十二版)
- 大正十一年五月二十五日(二十三版)
- 大正十一年六月二日(二十四版)
- 大正十一年七月三日(二十五版)

(二十六) 改版經濟學考證

大正十年三月廿五日

大鏡閣發行

(二十七) 國民經濟講話件名索引 (村島靖雄編・大野隆校)

大正十年五月五日

大鏡閣發行

(二十八) 經濟學論攷

大正十年五月二十五日(全部初版一—三〇〇)

大鏡閣發行

(二十九) 社會政策と階級闘争

大正十一年二月一日

大倉書店及改造社發行

- 大正十一年二月六日(三版)
- 大正十一年二月八日(五版)
- 大正十一年二月十四日(七版)
- 大正十一年二月十六日(九版)
- 大正十一年三月廿五日(十一版)
- 大正十一年四月五日(十三版)

- 大正十一年二月七日(四版)
- 大正十一年二月十三日(六版)
- 大正十一年二月十五日(八版)
- 大正十一年三月十二日(十版)
- 大正十一年三月卅日(十二版)

(以上大倉書店發行)

- 大正十一年五月廿五日(十四版)
- 大正十一年六月三日(十六版)
- 大正十一年六月十八日(十八版)
- 大正十一年九月廿五日(二十版)
- 大正十三年三月十三日(二十二版)
- 大正十三年三月十五日(二十四版)
- 大正十三年七月十日(二十六版)
- 大正十三年十月十日(二十八版)
- 大正十四年二月十日(三十版)

- 大正十一年五月廿八日(十五版)
- 大正十一年六月十二日(十七版)
- 大正十一年六月廿五日(十九版)
- 大正十一年九月卅日(二十一版)
- 大正十三年三月十四日(二十三版)
- 大正十三年三月十六日(二十五版)
- 大正十三年十月九日(二十七版)
- 大正十四年一月七日(二十九版)

(以上改造社發行)

福田德三 著述目錄

(三) 社會運動と勞銀制度

改造社發行

- 大正十一年六月二十二日
- 大正十一年六月二十四日(三版)
- 大正十一年六月二十六日(五版)
- 大正十一年六月二十八日(七版)
- 大正十一年六月三十日(九版)
- 大正十一年十月十日(十一版)
- 大正十三年十月二十日(十三版)

- 大正十一年六月二十三日(再版)
- 大正十一年六月二十五日(四版)
- 大正十一年六月二十七日(六版)
- 大正十一年六月二十九日(八版)
- 大正十一年十月五日(十版)
- 大正十三年一月十五日(十二版)
- 大正十三年十月廿五日(十四版)

(三) ポルシエ・ヴルズム研究

改造社發行

- 大正十一年九月七日
- 大正十一年九月九日(三版)
- 大正十一年九月十一日(五版)
- 大正十一年九月十三日(七版)
- 大正十三年十月十日(九版)

- 大正十一年九月八日(再版)
- 大正十一年九月十日(四版)
- 大正十一年九月十二日(六版)
- 大正十一年九月十四日(八版)
- 大正十三年十月十五日(十版)

(三) 經濟危機と經濟恢復

大鏡閣發行

- 大正十二年三月十五日
- 大正十二年三月二十五日(三版)

- 大正十二年三月二十日(再版)
- 大正十二年三月三十日(四版)

- 大正十二年四月五日(五版)
- 大正十二年四月十五日(七版)

- 大正十二年四月十日(六版)
- 大正十二年四月二十日(八版)

(三) 復興經濟の原理及若干問題

同文館發行

大正十三年七月三日(全部初版一—三〇〇〇)

(三) 經濟原論教科書

同文館發行

- 大正十四年一月二十日
- 大正十四年二月二十五日(再版)
- 大正十四年二月二十八日(三版)
- 大正十四年二月一日(四版)

(三) 流通經濟講話

大鏡閣發行

◎印刷中

經濟學全集 刊行豫定表

第一集
第二集
第三集
第四集
第五集
第六集

書名	總頁數	冊數	刊行期
經濟學講義	約一、五〇〇	一冊	大正十四年三月
國民經濟講話	一、五〇〇	一冊	
經濟史經濟學史研究	一、六〇〇	一冊	同
經濟學研究	一、九五〇	一冊	
社會政策研究	二、八〇〇	二冊	大正十五年三月
經濟政策及時事問題	二、六五〇	二冊	
通計	カ一三、〇〇〇	八冊	同 九月

豫定は便宜變更することある可し